

矢田新遺跡

地方道改築事業 南加賀道路（粟津ルート）に伴う新設道路工事に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

2018.3

石川県小松市埋蔵文化財センター

例 言

1. 本書は、地方道改築事業 南加賀道路（栗津ルート）に伴う新設道路工事に係る矢田新遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査面積・調査期間・調査担当者は次のとおりである。
[調査地] 石川県小松市矢田新町地内
[調査原因] 地方道改築事業 南加賀道路（栗津ルート）に伴う新設道路工事
[調査面積] 1,410m²
[発掘調査] 2016. 8.29 ~ 2016.12.14
[調査担当] 宮田 明
3. 発掘調査は、㈱太陽測地社の支援業務を活用して実施した。
4. 出土品整理並びに実測・製図は臨時作業員を雇用して実施した。
5. 遺構の実測及び写真撮影、並びに遺物の写真撮影は宮田が行った。
6. 本書の執筆・編集は宮田が担当した。
7. 発掘調査に係る遺物・図面・写真等の資料は、すべて小松市教育委員会で一括保管している。

凡 例

1. 本書に示す座標（VII系）は世界測地系に準拠した。
2. 本書に示す方位は座標北である。
3. 本書に示す高度は標高（T.P.に準拠）である。
4. 本書に示す土色はマンセル表色系に準拠している。
5. 本書に示す土性、コンシスティンス及びその他の属性は、日本ペドロジー学会の示す判定法を参考として表記した。ただし、厳密なものではない。
6. その他の凡例は、本文中に適宜示す。

目 次

本 文

I 位置と環境	1
II 調査の概要	13
III 遺構と遺物	15
IV まとめ	18

図 版

矢田新遺跡 平面図 1 ~ 14	図版 1
矢田新遺跡 遺構実測図 1 ~ 5	図版 15
矢田新遺跡 出土遺物実測図 1 ~ 5	図版 20

写真図版

矢田新遺跡 発掘調査 1 ~ 6	写真図版 1
矢田新遺跡 出土遺物 1 ~ 2	写真図版 7

卷 末

報告書抄録

第Ⅰ章 位置と環境

第1節 地理的環境

1 市勢と沿革

小松市は石川県南部に位置し、東西約20km、南北約30kmに跨る市域は面積371.13km²を測る。南は大日山（1368m）で福井県勝山市と境し、ここより約5km北に位置する鉛ヶ岳（1174m）を水源とする梯川流域を包括した市域をなしている。市域の大半は山岳地であり、約11万人を数える人口の大部分は北西部の狭長な平野部に集中している。近世城下町として成立し、商業都市として発展した小松町を核として近隣7町村を合併して昭和15年市制施行、その後2次にわたる編入合併を経て現在に至っている。

2 加賀三湖と月津台地

小松市の山岳地（加越山地）は新第三紀火碎流堆積物よりなるが、この外縁を縁取るように、第四紀高位段丘がなだらかな丘陵を形成している。ここより北にせり出すのが月津台地で、標高は、高所で約20m程度あるが、平均的には5～10m程度で、なだらかな起伏の連続した中位段丘である。大きな開析谷で区切って、北を御幸野台地、南を矢田野台地と呼ぶこともある。かつて、周囲は浜堤列で海と隔てられた潟湖が囲み、泥質の湿地や湿田が広がっていたが、現在は今江潟の全域、柴山潟の約3分の2が干拓され、湿田や湿地も月津台地の採取土で埋め立てて乾田化されている。

梯川は、大杉谷を北流し、郷谷川・津上川等を合わせて国府台地をえぐりながら西に向を変え、八丁川・前川等を合わせて、安宅で浜堤を突き破って日本海に注ぐ。図2は明治時代の河道と水域を合成したものだが、幕末の頃までは、細かく複雑に蛇行していた。

3 梯川と梯川デルタ

梯川は掃流力が弱く、自然堤防の発達が悪い平坦な沖積平野を形成した。河道が南に折れる地点が小松城跡で、小松町は埋没したもっとも内陸側の浜堤列上に立地している。梯川デルタはこれより下流には形成されず、河道は手取川デルタとの境界に当たる最も低い位置にある。複雑に蛇行する河道はしばしば氾濫したため、明治維新直後から河道の直線化工事が繰り返され



図1 小松市の位置

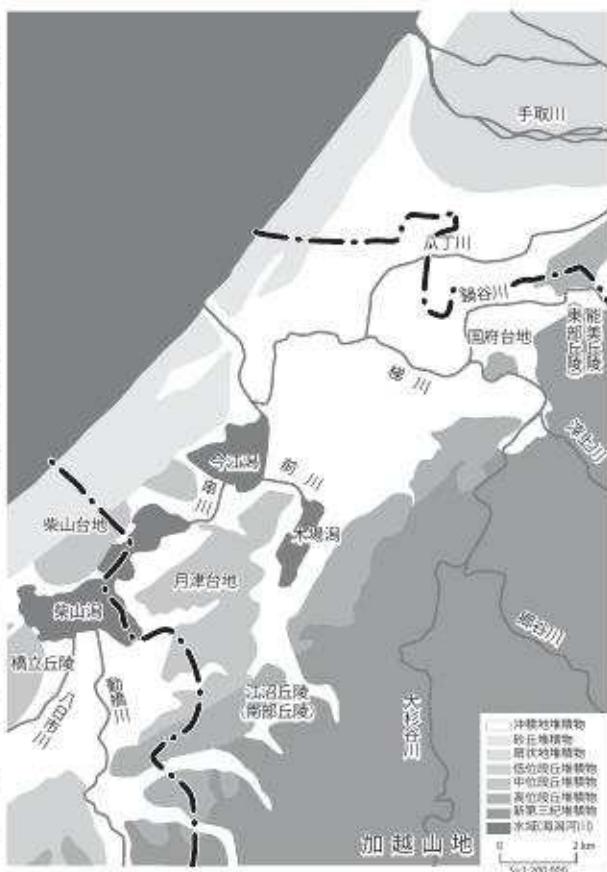


図2 小松市の地形

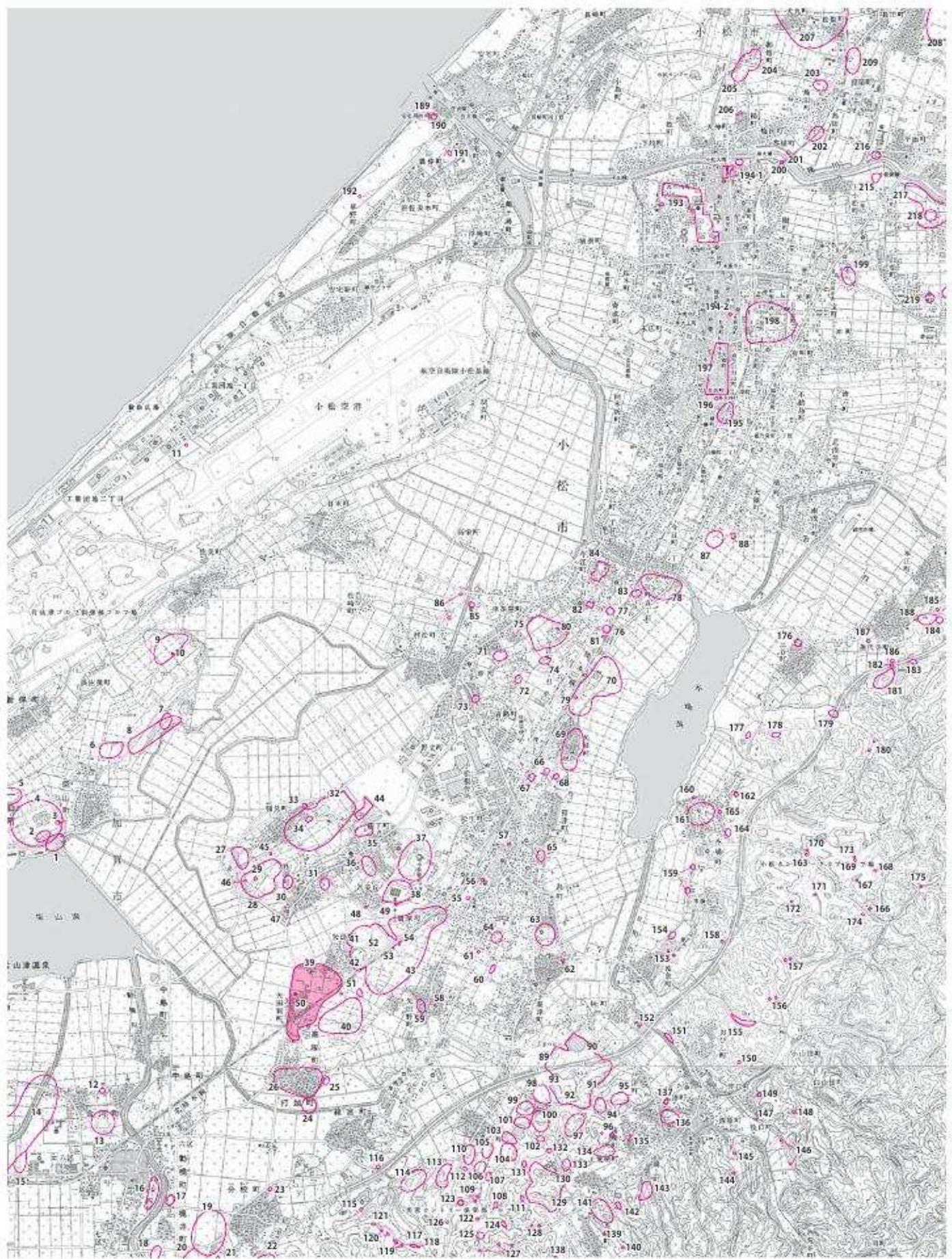
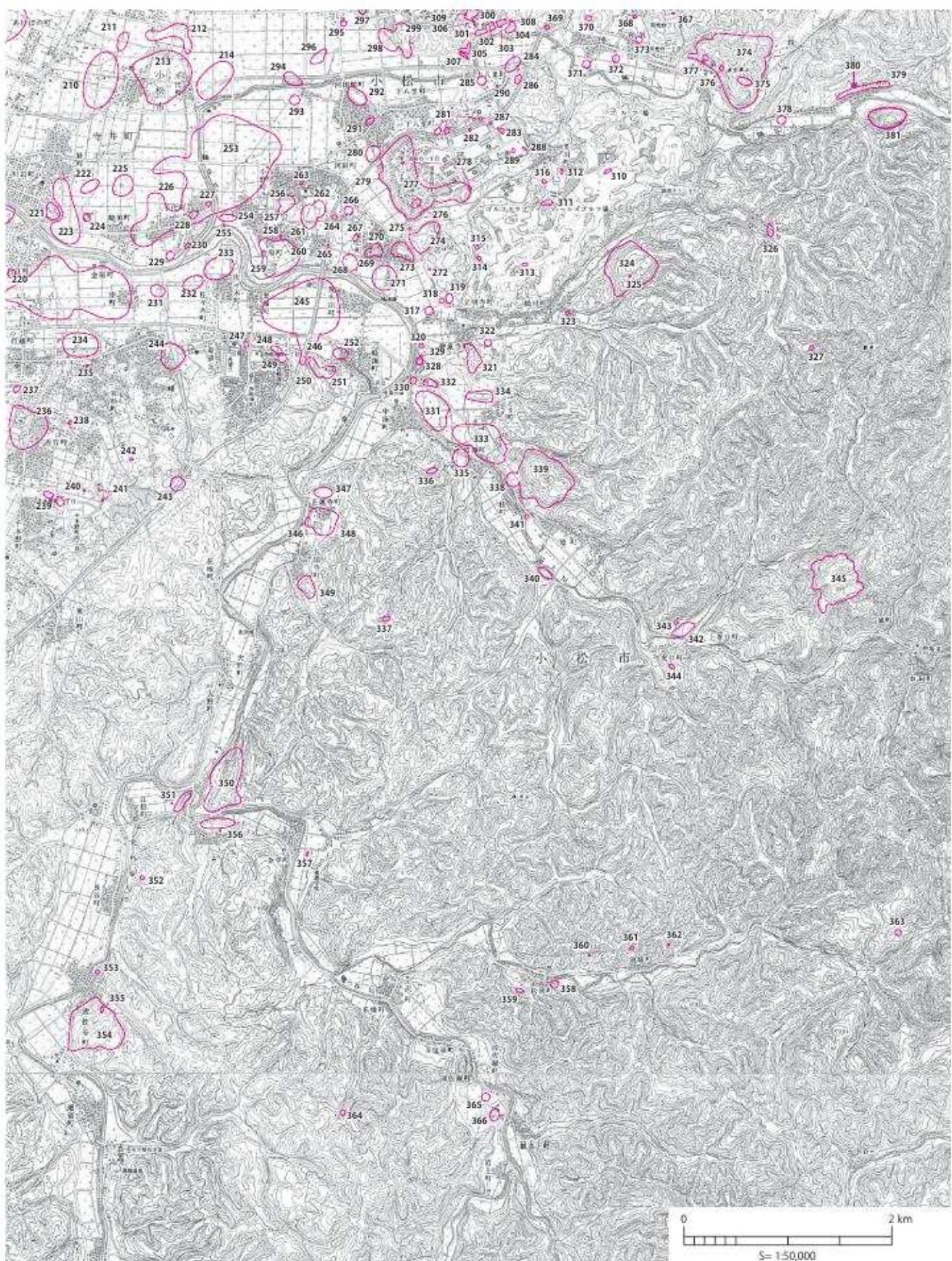


図3 遺跡分布図



てきた。明治 44 年～大正 12 年に石田橋～安宅間の開削工事により、現在の河道になり、河川改修は現在も続いている。

本報告で言う梯川デルタとは、事実上、梯川と今江渦・木場渦を結んだ領域を指している。図 2 に表示はないが、この領域には明治 20 年頃までは扇形に小河道群が残っており、灌漑に利用されていた。この中央を貢流していた猫橋川が本流とされ、これら小河道群は、デルタを形成した梯川旧河道群と見なされる。傾斜の少ない平坦な地形はしばしば湛水被害を引き起こし、明治 32 年の耕地整理法以降、用水確保と湛水防除の必要から用排水路の整備が繰り返し行われた。

第 2 節 歴史的環境

1 旧石器～縄文時代の遺跡

発見例自体は決して少なくないが、小松市内では資料が乏しい。能美丘陵界隈で言えば、河田山遺跡（276）や八里向山 A～F 遺跡（300～305）など、散発的に遺物や遺構が確認された例はあるが、集落遺跡としての確認例は断片的である。能美市能美丘陵東遺跡群では、宮竹庄が屋敷 A～D 遺跡や宮竹うっしょやま A・B 遺跡（いずれも図郭外）など、縄文時代中期を中心に豊富な資料を得るに至っている。遺跡のほぼ全域を調査したこの両者は非常に好対称をなしている。

一方、月津台地では、念佛林遺跡（37）が集落遺跡としては代表的な調査例と言えるだろう。近現代の開発も含め、多くが後世の破壊を受けて潰滅的な状態の中で、集落像の一例を提供している。能美丘陵でも月津台地でも、縄文時代の集落遺跡の多くは短期間に営まれた小集落で、南加賀では能美丘陵が分布的中心をなすと見なされる。

2 弥生時代の遺跡

八日市地方遺跡（198）が大規模な環濠集落として特筆され、中期はここだけに収斂する趨勢であり、後期頃から古墳時代前期にかけて梯川周辺に広い範囲に集落が点在する景観となる。代表的なところでは、高堂遺跡（図郭外）、大長野 A 遺跡（210）、漆町遺跡（220）、荒木田遺跡（245）のように、広大な領域の複合遺跡で法仏期頃以降の遺物が出土していて、月影期頃にかけては、河田山遺跡（276）や八里向山 A 遺跡（300）で高地性集落が確認されている。ただ注意が必要なのは、広大な領域の複合遺跡というのは、現集落からはずれた範囲であることが前提であり、範囲の狭小な遺跡は、現集落と重複して確認できないことが多い。

3 古 墳

能美地域の首長墓の系譜とされる末寺山 5・6 号墳、秋常山 1 号墳、和田山 5 号墳（いずれも図郭外）を擁する能美古墳群が手取川河道域と目される領域の南に接して築造される。造墓は弥生時代末に始まり、古墳時代を通じて造墓が継続する、能美地域の中核的古墳群と評価されている。

能美丘陵界隈では、中期後半以降、河田山古墳群（277）や下開発茶臼山古墳群（図郭外）など、中小規模の円墳・方墳が尾根筋に密集して混在ないしいずれかのみの構成で築造される群集墳が各所に分布する。また、平野部では、千代才オキダ遺跡（226）で、削平された方墳からなる前期段階の古墳群が発見され、新たな知見を得るに至っている。

月津台地では、小規模な後期古墳が疎らに分布する趨勢で「三湖台古墳群」と総称され、古墳群としては江沼地域に属する。造墓が始まる早い段階では白のはぞ古墳（44）や御幸塚古墳（82）などの中規模の前方後円墳が見られるが、主体は小規模な円墳で、埴輪を伴う。矢田借屋古墳群（52）のような密集する造墓のあり方は、三湖台古墳群では今のところ特異な事例といえるだろう。

埋葬施設は、木棺直葬から後期前半に木芯粘土室、さらに後半に切石積横穴式石室が採用される。

4 古墳時代～古代・中世の遺跡

集落遺跡の趨勢で言えば、6世紀以降8世紀にかけては集落の再編期に当たり、相対的に資料が稀薄になる傾向があり、7世紀頃を前後して廃絶する集落と出現する集落がある。

7世紀代の月津台地では、額見町遺跡(32)の発掘調査以降、矢田野遺跡(43)、薬師遺跡(70)でL字形カマドを設えた竪穴建物跡の発見が相次ぎ、渡来系移民の動静が、木場潟を挟む対岸の江沼丘陵を占地する古代製鉄遺跡群との相關性において注目される。

梯川デルタ地域に目を転じると、8世紀、在郷の財氏関連遺跡とされる佐々木遺跡(231)が異彩を放つほかは、概ね盛期が9世紀後半～10世紀前半になる傾向が知られている。墨書き土器をはじめとして、施釉陶器や風字硯など、上級に格付けされる遺物が出土するものの、大型建物や倉庫群といった目立つ遺構の発見例に恵まれず、集落遺跡の評価を難しくしている。

寺院跡として、図3には中宮八院(319、322、331、338、347、348、349、352)を表示しているが、現状は伝承地の域を出ない。発掘調査された寺院跡として、浄水寺跡(243)、八里向山B遺跡(301)、里川E遺跡(314)が、いずれも加賀立国以後、中宮八院以前に成立した山林寺院に位置づけられ、浄水寺のほかは短期間で廃絶している。また、目下調査中の松谷寺跡(349)では、8世紀前半に遡る古代山林寺院跡が確認され、「松谷廃寺」として名称上の区別を明確にして取り扱うこととなった。なお、同調査で「松谷寺」は確認に至っていない。

製陶遺跡群について、6世紀前半には二ツ梨東山古窯跡(105)で須恵器生産を開始し、二ツ梨豆岡向山古窯跡群(100)、二ツ梨殿様池古窯跡群(101)で埴輪を焼成した窯も確認されており、江沼地域の古墳出土埴輪の供給地と考えられている。以後、10世紀中頃まで操業が続く南加賀古窯跡群が江沼丘陵を占地する。一方の能美丘陵では、7世紀前半に八里向山J遺跡(地蔵谷古窯跡:309)で須恵器生産を開始し、同後半代には湯屋古窯跡群(図郭外)に操業の拠点を移動する。8世紀前半には和氣古窯跡群(図郭外)へさらに移動し、9世紀前半まで窯を移動しながら操業が続き、疎らな窯跡群を残した。これら能美市和氣地区の窯跡群は、能美古窯跡群の南群として括られ、窯1基あたりの出土量が多い特徴が知られている。南加賀古窯跡群との比較では、操業の盛衰が補完的な傾向が指摘される一方で、技術的にも供給的にも両者の異質性も指摘されている。

これら製陶遺跡群とほぼ重複して、製鉄遺跡群も分布する。遺跡の性質上、時代不詳の遺跡は多いが、現在までに知られる最古の例として、蓮代寺ガッショウタン遺跡(183)で製鉄に伴うと見られる製炭窯が7世紀後半～末ないし8世紀初頭に比定されている。

律令期～中世には、各所で荘園が開発されるが、発掘調査でこれに関連する成果として、徳久・荒屋遺跡、下開発遺跡(いずれも図郭外)が律令期に成立した東大寺領幡生荘に比定されている。また、白江梯川遺跡(218)、漆町遺跡(220)は中世に皇室領や京都妙法院領として経営された南白江荘に関連する遺跡とされ、前者は在地領主層の拠点となる領域と考えられている。白江堡跡(218)は、「能美郡誌」によれば、従前の白江念佛寺塔遺跡(漆町遺跡:220)周辺が推定地の一つに上がっていたが、「石川県遺跡地図」に記載される内容と、従来プロットされていた旧白江墓地で埋蔵文化財が存在しなかった事實を勘案すれば、現在までの情報に照らす限りは、ここに比定すべきだろう。

5 中世の城館・寺院・窯跡

中世城館跡や中世寺院跡は、文献や口碑によるところが大きく、その多くは一向一揆にまつわるものである。近代の耕地整理で破壊を受けた遺跡が多く、調査が入った事例は極めて乏しい。岩瀬城跡(339)、岩倉城跡(345)、波佐谷城跡(354)など、縄張図が作成されている事例はあるが、いずれも、城郭としての構造が判然としない。

中世窯業について、古代の南加賀古窯跡群の分布域にはほぼ重複して、在地瓷器系窯、いわゆる「加賀窯」が分布する。常滑窯の技術に基づく窯で、甕を中心とした日用雑器類の生産が主力であったとされる。操業の期間が短く、12世紀末までには二ツ梨奥谷1号窯（108）で操業を開始し、湯上谷古窯跡群（143）で盛期を迎えるが、これを最後に14世紀代に一旦途絶え、西荒谷カマンダニ窯（岡郭外）で越前窯の技術移植により一時操業するが、現在までに流通は確認されておらず、程なく終焉したといわれている。

6 近世～現代

1640（寛永17）年、藩主を退いた前田利常の小松城入城を契機として、城下町としての小松町が成立するが、関連するところで大川遺跡・東町遺跡（194）が埋蔵文化財包蔵地（近世の町屋跡）として周知化されている。大川遺跡では発掘調査も実施され、小松市でも近世城下町の町屋の様相が明らかになりつつある。なお、前田利常の没後、亡骸は三宅野（現在の小松市河田町地内）で荼毘に付されたとされており、灰塚（264）が伝わっている。

近代窯業の関連で、南加賀では19世紀初めに加賀藩窯としての若杉窯（235）に始まるいわゆる再興九谷は、肥前系の染付・色絵の技術を移植して操業が軌道に乗り、若杉窯で技術を習得した陶工らによって、蓮代寺窯（186）、小野窯（263）などの民窯も操業を始めた。近代以降も民営の製陶業は引き継がれている。窯業という括りで言えば、再興九谷とほぼ時期を同じくして越前より技術移植して操業が始まる製瓦業も現代に引き継がれ、製品は「小松瓦」と呼ばれる。

さて、現集落の多くは近世以降に興った集落であり、地名も、郷名または荘園、中宮八院に所以を持つものなど見られるが、集落自体に直接の関係はなく、地名伝承にも不確かな部分が多い。史実で確かめられる伝承でも、例えば、一向一揆の古戦場伝承が古墳と結びついたり（土百古墳：81）、戦国末期の武将の墓と伝承される塚が古墳であったり（左門殿古墳：45）するなど、類似の事例はいくつか明らかになっている。加賀国府・国分寺や中宮八院などの文献史の分野で研究が進んでいる場合でも、伝承地が曖昧であったり複数あるなど、所在が確認できない現状を抱えている。

表1 遺跡地名表

No	名　　称	種　　別	時　　代	備　　考
1	柴山水底貝塚	貝塚	縄文	
2	柴山中世墓	その他の墓	中世	
3	柴山跡石道跡	散布地	不詳	
4	柴山城跡	城跡跡	中世	
5	一白A遺跡	散布地	古墳～古代	
6	柴山貝塚	貝塚・集落跡	縄文	加賀市指定史跡
7	柴山水底遺跡	貝塚	弥生	
8	柴山出村遺跡（A地点）	集落跡	弥生	
	柴山出村遺跡（B地点）	集落跡	古代～中世	柴山町等に隣接する地名
9	山の上遺跡	散布地	縄文	
10	佐美跡塚	經塚	不詳	
11	日末妙塚	經塚	不詳	
12	合河遺跡	散布地	不詳	
13	鶴橋遺跡	散布地	古代（平安）	
14	鶴橋遺跡	散布地	縄文	
15	都もどり地蔵遺跡	集落跡	弥生～中世	
16	鶴橋里跡	散布地	古代	
17	鶴井衛生センター遺跡	散在跡	中世（京町）	
18	鶴井跡跡	散布地	古代	
19	分枝A遺跡	散布地	古墳	
20	分枝B遺跡	散布地	古代（平安）	
21	分枝山王古墳群	古墳	古墳	円墳2
22	分枝カシ山古墳群	古墳	古墳	前方後円墳3、円墳10、方墳6
23	分枝高山古墳	古墳	古墳	前方後円墳
24	打越A遺跡	散布地	縄文	
25	打越B遺跡	散布地	弥生	
26	打越砌跡	城跡跡	中世（安土桃山）	
27	頬見町石道跡	集落跡	弥生～中世	
28	新白山A遺跡	散布地	不詳	
29	新白山B遺跡	散布地	縄文	
	新白山祭祀遺跡	その他の祭祀	古代（奈良）	

No.	名 称	種 别	時 代	備 考
30	月津才力道路	散布跡	古墳・中世	
31	月津 A 道跡	散布跡	古代(奈良)	
32	朝見町道跡	散布跡	繩文	
33	朝見神社前 A 道跡	散布跡	古墳	朝見町道跡の一部
34	朝見神社前 B 道跡	散布跡	繩文	朝見町道跡の一部
35	串町道跡	散布跡	繩文・不詳	
36	丹津表道跡	散布跡	繩文・古代	
37	念仏林道跡	集落跡	繩文	
38	念仏林表道跡	集落跡	弥生・古墳	
39	矢田新道跡	集落跡	古代(奈良)	
40	弓削里道跡	散布跡	繩文	
41	矢田 A 道跡	集落跡	古代・中世	
42	矢田 B 道跡	散布跡	繩文	
43	矢田表道跡	集落跡	古墳・古代	
44	白のほそ古墳	古墳	古墳	前方後円墳
45	左門殿古墳	古墳	古墳	円墳
46	茶臼山古墳	古墳	古墳	円墳、2段築成
47	鷺沼寺古墳	古墳	古墳	円墳
48	念仮塚古墳	古墳	古墳	円墳
49	念仮林古墳	古墳	古墳	円墳、木芯粘土室
50	丸山古墳	古墳	古墳	円墳、切石横濠六式石室、家形石棺
51	馬森塚古墳	古墳	古墳	円墳又は前方後円墳
52	矢田櫻尾古墳群	古墳	古墳	円墳 14、前方後円墳 3、不明 1、木芯粘土室
53	百人塚古墳	古墳	古墳	円墳
54	矢田野古墳群	古墳	古墳	円墳 3、前方後円墳 1
55	矢田野江ノ井古墳	古墳	古墳	前方後円墳
56	糸輪塚古墳	古墳	古墳	前方後円墳
57	符津石山古墳	古墳	古墳	円墳、切石横濠六式石室
58	中村古墳	古墳	古墳	円墳、切石横濠六式石室
59	矢田野神社前道跡	散布跡	古代(平安)	
60	下篠跡 A 横六群	横穴墓	不詳	篠穴 7 ~ 8
61	島移塚	斜濠	不詳	
62	下篠跡 B 横穴群	横穴墓	不詳	篠穴 2
63	島通跡	集落跡	弥生・中世	
64	島 B 道跡	散布跡	古代	
65	島 C 道跡	散布跡	古墳	方墳?
66	符津 A 道跡	散布跡	繩文	
67	符津 B 道跡	散布跡	繩文	
68	符津 C 道跡	集落跡	古墳	
69	矢輪宮の下道路	集落跡	繩文・中世	
70	矢輪跡	集落跡	古墳・古代	
71	車カソノヤマ A 道跡	散布跡	古代(奈良)	
72	車カソノヤマ B 道跡	散布跡	古墳	
73	車カソノヤマ C 道跡	散布跡	古墳	
74	今江向八山通跡	散布跡	弥生	
75	孤山通跡	集落跡	古墳	
76	上百通跡	散布跡	繩文	
77	今江右丁目通跡	集落跡	繩文・古墳	
78	五郎神貝塚	貝塚	繩文	
79	矢崎 B 古墳	古墳	古墳	
80	孤山古墳	古墳	古墳	
81	上古塚	古墳	古墳	
82	御幸塚古墳	古墳	古墳	前方後円墳、小松市指定史跡
83	今江坂穴群	横穴墓	不詳	篠穴 4
84	御幸塚通跡	軌道跡	中世	主轍と曲轍の一部
85	串古窯跡	生產道跡	中世末	製陶
86	日来瓦窯跡	生產道跡	近世初期	磚瓦窯
87	大瀬道跡	散布跡	古代	
88	浅井古戦場	その他	中世末	點燃定期跡
89	秋越磐寺跡	柱寺跡	不詳	
90	林道跡(林タカヤマ古窯跡群)	生產道跡	古墳	須恵器窯 3、南加賀古窯跡北群
91	林道跡(林タカヤマ古窯跡群)	生產道跡	古墳	須恵器窯 2、土師器窯 1、南加賀古窯跡北群
92	林道跡(林タカヤマ古窯跡群)	生產道跡	古墳	製鐵炉 2、製鐵窯 4、鍛冶炉 2、鍛壓窯 2
93	戸津六字ヶ呑古窯跡群	生產道跡	古墳	須恵器窯 36、瓦窯窯窓 5)、土師器窯 19、製灰窯 1、南加賀古窯跡北群
94	戸津 1 号古窯跡	生產道跡	古代(平安)	製灰窯
95	戸津ワカタニ古窯跡	生產道跡	不詳	製鐵炉 1、製灰窯 1
96	戸津ショウガニ古窯跡	生產道跡	古墳(平安)	須恵器窯 1、製鐵炉 1、南加賀古窯跡北群
97	戸津モタニ古窯跡	生產道跡	不詳	製灰窯
98	二ツ梨一掛山古窯跡群	生產道跡	古代(奈良)	須恵器窯 2、製鐵炉 1、南加賀古窯跡北群
99	二ツ梨二掛山古窯跡群	生產道跡	古代	須恵器窯 12、土師器窯 28、製鐵炉 1、製灰窯 3、南加賀古窯跡北群
100	二ツ梨三掛山古窯跡群	生產道跡	古墳・古代	須恵器窯 12(土師器窯 2、製鐵炉 2)、南加賀古窯跡北群
101	二ツ梨四掛山古窯跡群	生產道跡	古墳・古代(平安)	須恵器窯 3(土師器窯 3)、土師器窯 3、南加賀古窯跡北群
102	二ツ梨ダミノギバラ古窯跡群	生產道跡	古代	土師器窯 4、土師器窯、南加賀古窯跡北群
103	二ツ梨丸山古窯跡群	生產道跡	古墳	須恵器窯 3、南加賀古窯跡北群
104	二ツ梨豊山古窯跡群	生產道跡	古墳	須恵器窯 8、南加賀古窯跡北群
105	二ツ梨東山古窯跡群	生產道跡	古墳	須恵器窯 5、南加賀古窯跡北群
106	二ツ梨駒形通跡	生產道跡	古代(奈良)	須恵器窯 1、製鐵 1、製灰窯 1、南加賀古窯跡北群
107	二ツ梨横川通跡	生產道跡	古代(奈良)	須恵器窯 1、製鐵 1、南加賀古窯跡北群

No.	名 称	種 别	時 代	備 考
108	二ツ梨穂谷古窯跡群	生産遺跡	古代(平安末)	須志器窯2、加賀窯1、南加賀古窯跡北群
109	二ツ梨穂谷1～2号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
110	二ツ梨穂谷古窯跡群	生産遺跡	古代	須志器窯石(五輪窯)1、南加賀古窯跡北群
111	二ツ梨カセイデ古窯跡群	生産遺跡	不詳	須志器窯2、南加賀古窯跡北群
112	矢田野向山古窯跡群	生産遺跡	古代(奈良)	須志器窯6、南加賀古窯跡北群
113	矢田野向山古窯跡群	生産遺跡	古代(奈良)・中世(鎌倉)	須志器窯4、加賀窯2、製鉄3、南加賀古窯跡北群
114	新宮下立方字古窯跡群	生産遺跡	古代(奈良)・中世(鎌倉)	須志器窯6、加賀窯2、南加賀古窯跡北群
115	新宮A窯跡	散布地	中世	
116	新宮B窯跡	散布地	中世	
117	小天王谷1～2号窯跡	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀窯2
118	小天王谷1号製鐵跡(天王山1号製鐵跡)	生産遺跡	不詳	製鉄1
119	小天王谷2～3号製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
120	大久保谷1～2号製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
121	大久保谷古窯跡	生産遺跡	不詳	
122	御谷1号窯跡	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀窯
123	矢田野カタクシダニ製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄3
124	矢田野1～2号窯穴	横穴墓	不詳	
125	那谷1～5号窯穴	横穴墓	不詳	
126	御谷6号窯穴	横穴墓	不詳	
127	御谷中山谷製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄6 ¹ 3
128	上荒屋カルイン製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄6 ¹ 2
129	上荒屋シャモンドニ遺跡	生産遺跡	古代(平安)	須志器窯4、製鉄3、南加賀古窯跡北群
130	上荒屋サンマイダニ遺跡	生産遺跡	古代(平安)	須志器窯4～5、製鉄2、横穴1、地下式窓1、南加賀古窯跡北群
131	上荒屋サンマイダニヤマ古窯跡群	生産遺跡	古墳・古代(奈良)	須志器窯4、南加賀古窯跡北群
132	上荒屋キタニ古窯跡群	生産遺跡	古代(奈良)	須志器窯2、南加賀古窯跡北群
133	上荒屋トリダニ古窯跡群	生産遺跡	古代(奈良)・中世(鎌倉)	須志器窯1、加賀窯1、製鉄炉1、南加賀古窯跡北群
134	上荒屋オニヤマ古窯跡群	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀窯4、製鉄炉1
135	戸津1～2号製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉2
136	戸津本蓮寺跡	社寺跡	中世(室町)	
137	戸津八幡神社前遺跡	散布地	古代・中世	
138	上荒屋那谷口遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉1
139	馬場ニカヤマ遺跡	生産遺跡	古代(平安)	須志器窯1、製鉄炉1、南加賀古窯跡北群
140	馬場タニヤマ遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉1
141	上荒屋ホウジュウヤマ遺跡	生産遺跡・社寺跡・塙墓	古代(平安)～中世	須志器窯5、製鉄炉2、墳墓、南加賀古窯跡北群
142	上荒屋ハカントニ古窯跡群	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀窯2
143	上荒屋古窯跡群	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀窯10、製鉄炉2
144	西原フルカシキ製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄
145	西原ムカイヤマカナクシ製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
146	牧口キドラ製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
147	牧口中世墓群	横窓	中世(鎌倉)	牧師塚七足塚
148	内山田ドヤマ製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉2度数
149	内山田社製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄
150	井口エンドウ製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄
151	井口遺跡	散布地	不詳	
152	林八幡神社経跡	經跡	中世(鎌倉)	
153	津波倉ホットジ遺跡	横穴墓	中世(室町末)	坦干式坑6、2基側面
154	大谷山貝塚	貝塚		
155	小山田コガダニ遺跡	散布地	不詳	乾淨敷石地
156	小山田BSトキ製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉2
157	小山田オクサガニ製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉2
158	津波倉ハクタニダニ製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉1、製炭窯複数
159	木場古墳群	古墳	古墳	円墳4
160	水堀古墳	古墳	古墳	地区で古田城跡とされる
161	延田城跡	城跡跡	不詳	
162	水堀温泉遺跡	散布地	難文	
163	木場 A 遺跡(木場遺跡 H 地区)	生産遺跡	古代(奈良)	製鉄炉1、製炭窯2
164	木場 B 遺跡	散布地	古代(平安)～中世	
165	木場 C 遺跡	散布地	不詳	
166	木場遺跡 A 地区(1号遺跡)	生産遺跡	古代(平安)	製炭窯3、乾淨敷石地
167	木場遺跡 B 地区(2号遺跡)	生産遺跡	古代(平安)	製鉄炉2、製炭窯2
168	木場遺跡 C 地区(3号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鐵
169	木場遺跡 D 地区(4号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄炉1、製炭窯1
170	木場遺跡 E 地区(5号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鐵
171	木場遺跡 F 地区(6号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鐵
172	木場遺跡 G 地区(7号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄炉
173	木場遺跡 D 地区(8号遺跡)	横穴墓	不詳	横穴1
174	大住遺跡	散布地	不詳	乾淨敷石地
175	長谷別御室の山遺跡	散布地	不詳	乾淨敷石地
176	三谷 B 遺跡	散布地	難文	
177	三谷 T 戸谷遺跡	不詳	不詳	墳丘又は塚
178	三谷大谷遺跡	無落跡	古代・中世	
179	三谷大谷遺跡	生産遺跡	不詳	製鐵炉1、乾淨敷石地
180	三谷大谷製鐵跡	生産遺跡	不詳	製鐵炉1、乾淨敷石地
181	藤台寺城跡	城跡跡	不詳	小切換な物跡か
182	蓮代寺ムコシヤマ製鐵跡	生産遺跡	中世(鎌倉)	製鉄炉1、製炭窯1
183	蓮代寺ガリショウタケン遺跡	生産遺跡	不詳	製炭窯3、乾淨敷石地
184	蓮代寺ヨミ遺跡	散布地	不詳	乾淨敷石地
185	本江古窯跡	生産遺跡	不詳	製鐵
186	蓮代寺落跡	生産遺跡	近世末	再興九谷「蓮代寺窯」
187	蓮代寺瓦窯跡	生産遺跡	近世初期	磚瓦窯
188	蓮台寺跡	社寺跡	中世	武川氏恭提寺「蓮台寺」此定地
189	安宅開跡	その他	不詳	船指定史跡
190	安宅住吉神社遺跡	散布地	不詳	
191	安宅中世墓群	その他墓	中世(室町)	
192	安宅大塚古墳	古墳	不詳	精石塊とも項目の古墳とも、現存せず
193	小松城跡	城跡跡	近世	本丸・二ノ丸・三の丸の一部、本丸精石は小松市指定史跡
194	大田道跡	町屋跡	近世	近世小松城下町・後醍醐の御居跡

No.	名 称	種 别	時 代	備 考
194-2	東町道跡	散布地	近世	近裡小松原下町・東町の村道跡
195	幸町道跡	生産道跡	中世(室町)	新古
196	多太神社境内道跡	散布地	中世(室町)	舞鶴殿出土埋
197	本折城跡	城跡跡		木折氏居館跡伝承地の一
198	八日市地方道跡	散布地	鎌文-中世	
	集落跡	弥生		類縁聚落
199	上小松道跡	散布地	古代(平安)	
200	柳川疏移道跡	散布地	弥生	舞川に分断された左岸側包蔵地
201	柳川疏移B道跡	散布地	弥生	舞川に分断された右岸側包蔵地
202	鳥田A道跡	散布地	古墳-古墳	
203	鳥田B道跡	散布地	古墳	
204	鶴頭道跡	駆跡跡	中世(室町)	
205	戎頭道跡	散布地	弥生-古墳	
	集落跡	中世		一ノ内段・舞田郡七郎重衡居館伝承地
206	桜道跡	散布地	弥生-古墳	
	集落跡	中世		
207	桜製造跡	散布地	鎌文-弥生-中世	
	集落跡	古墳-古代		
208	長田道跡	散布地	弥生-古墳	
209	長田南道跡	散布地	弥生-古墳(平安)	
	集落跡	中世(室町)		
210	大見野A道跡	集落跡	弥生-中世	
211	大長野B道跡	散布地	不詳	
212	平島町の島道跡	集落跡	古代(平安)	
213	千代デジロ道跡	集落跡	弥生-中世	
214	牛島ウハシ道跡	集落跡	鎌文-中世	
215	平瀬桜川道跡	集落跡	弥生	舞川に分断された左岸側包蔵地
216	平瀬桜川B道跡	散布地	弥生	舞川に分断された右岸側包蔵地
217	白江桜川道跡	集落跡	弥生-中世	
218	白江塙跡	駆跡跡	中世(室町)	白江新街聚落伝承地
219	白江道跡	散布地	古墳-中世	道町道跡の一部
220	漆町道跡	集落跡	弥生-中世	
221	一針道跡	散布地	鎌文	
222	一針B道跡	集落跡	弥生-古墳	
223	一針C道跡	集落跡	弥生-古墳	
224	北地坊跡	社寺跡	中世(室町)	
225	千代・能美道跡	集落跡	古墳-中世	
226	千代オオキダ道跡	散布地	鎌文-弥生	
	集落跡	弥生-中世		
	古墳	古墳		方墳石
227	千代小御町道跡	散布地		
228	千代姫跡	駆跡跡	中世(室町)	
229	千代本村道跡	散布地	古墳	
230	植田道跡	散布地	鎌文	
231	佐々木道跡	集落跡	古民	財氏別宅跡(奈良)
232	佐々木ノテウラ道跡	集落跡	弥生-中世	
233	佐々木アサバタケ道跡	集落跡	弥生-中世	
234	打越道跡	散布地	古代	
235	岩杉塙跡	生産道跡	近世末	再興九谷「岩杉塙」。連房式壁窓
236	吉竹道跡	集落跡	弥生-中世	
237	吉竹B道跡(吉竹道跡 19 地點)	散布地	古墳	山間道の坂跡
238	吉竹C道跡	集落跡	弥生-中世	
239	千木野道跡	散布地	鎌文	
240	千木野(A)道跡	古墳	古墳	古墳 8
	千木野(B)道跡	集落跡	古墳	
241	幡谷古墳・兼谷2号墳	古墳	古墳	切石積築式石室
242	岩杉オソホ山1号塙跡	生産道跡	古墳	須志源流
243	淨寺石跡	社寺跡	古墳-中世	創建は加賀国府・圓融寺周辺山林寺院群の一
244	八幡道跡	散布地	鎌文	
		集落跡	弥生-古墳;古代(奈良)-中世(鎌文)	
	老の越の墓	古墳	(平安)	土筑墓
245	八幡古墳群	古墳	古墳	円墳 8、木芯粘土室
	八幡若杉塙跡	生産道跡	近世末	再興九谷「八幡若杉塙」。八幡 6 号塙を削平して築いた連房式斜窓
246	舟木津道跡	集落跡	古墳-中世	
247	軒渓浜寺道跡	集落跡	鎌文-中世	
248	大谷口道跡	散布地	弥生	
249	經海道跡	散布地	弥生-中世	
250	龜山道跡	生産道跡	古墳	玉作
251	鶴御中田墓群	その他の墓	中世(室町)	鶴石墓 9
252	鶴森寢跡	社寺跡	古代(平安)	大岡寺伝承地
253	西芳寺道跡	社寺跡	古代(平安)	西芳寺伝承地
254	古府しのまち道跡	集落跡	弥生-古代	
255	古府道跡	集落跡	古代(平安)	
256	古府ドンド道跡	散布地	古代(平安)	
257	十九聖山道跡	社寺跡	古代(平安)	加賀国分寺指定地
258	十九塙山中田墓群	その他の墓	中世(室町)	
259	古府櫻穴	不詳	不詳	
260	古府シマ道跡	散布地	古代(平安)~中世	
261	南町古道跡	散布地	鎌文	
262	小野道跡	集落跡	古代(平安)	加賀国分寺指定地の一部
263	小野シマノ子道跡	集落跡	古代(平安)	加賀国分寺指定地の一部
264	前田和常公塙跡	生産道跡	近世末	再興九谷「小野塙」
265	前田内史塙	その他の墓	近世末	前田内史公が常徳に付された地とされる
266	前田ミヤケノ道跡	散布地	不詳	古由の普提供資と廃除方法を記した石柱。小松市指定史跡

No.	名 称	種 别	時 代	備 考
267	横田ミサンタン遺跡	散布地	不詳	
268	横田ラム半遺跡	散布地	古代～中世	
269	横田フルカラ遺跡	散布地	古墳	
270	青谷寺屋敷遺跡	散布地	縄文・中後(安町)	
271	横田遺跡	散布地	古代	
272	横田塚	不詳	不詳	
273	横田後山古墳群	古墳	古墳	円墳 9、木棺直葬、木芯粘土室
274	横田山古墳群	古墳	古墳	円墳 12、方墳 4
275	鶴巣後所古墳	古墳	古墳	円墳
276	河田山遺跡	散布地	旧石器～縄文	
	集落跡	弥生		高尾性聚落、河田山 10～12 号墳が重複
	その他の墓	古墳(奈良)		火葬墓、河田山 3 号墳の北側に所在
277	河田山古墳群	古墳	古墳	前方後円墳 2、前方後方墳 2、円墳 22、方墳 34、不明 1、木棺直葬、木芯粘土室、切石砌築式石室
	河田横穴	横穴墓	不詳	丸子式底、河田山 54 号墳の南に開口
278	河田山 1 号墳跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵器窯、鹿美古窯跡南群 八里・河田山支群、河田山 40 号墳の北西斜面に所在
	河田山古窯跡	生産遺跡	不詳	須恵器窯、鹿美古窯跡南群 八里・河田山支群
279	河田 8 遺跡	散布地	縄文・古代(奈良)	
280	河田 C 遺跡	散布地	不詳	
281	下八里横穴群	横穴墓	不詳	丸子式底 6、横穴 1、不明 1、3 地点で計 8 基
282	六場横穴群	横穴墓	不詳	丸子式底 2 基
283	上八里横穴群	横穴墓	中後(安町)	横穴 11 基
284	上八里中世墓跡	その他の墓	中後(安町)	
285	上八里 A 遺跡	散布地	縄文・古代(平安)	
286	上八里 B 遺跡	散布地	古代(奈良)	
287	上八里 C 遺跡	横穴墓	古墳	横穴 2 基
288	上八里 D 遺跡	散布地	古代(奈良)	
289	上八里 1 号墳跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵器窯、鹿美古窯跡南群 八里・河田山支群
290	上八里 2 号墳跡	生産遺跡	不詳	丸子式窯、鹿美古窯跡南群 八里・河田山支群
291	谷内横穴	不詳	不詳	
292	河田創遺跡	散布地	縄文・中世	
293	下出地削道跡	散布地	不詳	
294	佐野 A 遺跡	散布地	弥生	
295	佐野 B 遺跡	散布地	古墳	
296	佐野八反田遺跡	散布地	古氏	
297	狹野神社新道跡	散布地	古代(平安)	
298	河田麻山下遺跡	散布地	縄文・古代(平安)	
299	河田麻山古墳群	古墳	古墳	円墳 7
300	八里向山 A 遺跡	散布地	縄文	
	集落跡	弥生		高尾性聚落
	散布地	旧石器～縄文		
301	八里向山 B 遺跡	柱寺跡	古代(奈良)	加賀国跡・国分寺周辺山林寺院群の一
	散布地	旧石器～縄文・古代(奈良)		
302	八里向山 C 遺跡	集落跡	弥生	前方後方墳 1、木棺直葬
	古墳	古墳		
303	八里向山 D 遺跡	散布地	旧石器～縄文	
	集落跡	弥生～古墳		方墳 2、木棺直葬
304	八里向山 E 遺跡	散布地	古墳	古墳 1
	集落跡	古墳		
305	八里向山 F 遺跡	散布地	縄文	
	古墳	古墳	円墳 10、木棺直葬	
	その他の墓・横穴墓	中後(安町)	獨石墓 1、横穴 3	
306	八里向山 G 遺跡	散布地	弥生・古氏(平安)	
307	八里向山 H 遺跡	その他の墓	中後(縄文)	獨石墓群、獨石古窯跡南群 八里・原台支群
308	八里向山 I 遺跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵器窯、鹿美古窯跡南群 八里・原台支群
309	八里向山 J 遺跡	生産遺跡	古墳	須恵器窯、鹿美古窯跡南群 八里・原台支群
310	甲川 A 遺跡	生産遺跡	不詳	製灰窯 2、製灰坑 20
311	甲川 B 遺跡	生産遺跡	不詳	製灰窯
312	甲川 C 遺跡	生産遺跡	不詳	製灰窯
313	甲川 D 遺跡	散布地	縄文	
314	甲川 E 遺跡	柱寺跡	古代(平安)	加賀国跡・国分寺周辺山林寺院群の一
315	甲川 F 遺跡	柱寺跡	古代(平安)	加賀国跡・国分寺周辺山林寺院群の一
316	甲川 G 遺跡	散布地	不詳	
317	遊泉寺・タボタ A 遺跡	散布地	古代(平安)～中世	
318	遊泉寺・タボタ B 遺跡	散布地	古代(平安)～中世	柱寺(深町字)・又は船形石塚
	立原寺古窯跡	生産遺跡	古氏(平安)	須恵器窯・五輪塚(深)
319	立原寺古墳	古墳	古墳	古代遺跡の可能性も
320	立原寺遺跡	柱寺跡	古代(平安)	中宮八幡、複数ある丘陵地の一つ
321	青の旗墳墓群	その他の墓	(平安)	
322	圓泉寺跡	柱寺跡	古代(平安)	埴生 4、3 基調査、2 号墓は鎌倉時代に終塚に利用された?
323	常徳寺跡	柱寺跡	中後(安町)	中宮八幡、複数ある丘陵地の一つ
324	鶴川堅跡	城跡	不詳	一ノ堅・宇山富士の居宅跡とも
325	鶴川横穴	不詳	不詳	一ノ堅・宇山富士の居宅跡とも
326	弘大寺・伝弘大寺跡	柱寺跡	中後	坦下式墳?
327	弘大寺とうの辻古墳	古墳	古墳	
328	弘生寺跡	柱寺跡	中後	
329	弘生寺塚	斜塚	中後	
330	ブッシュウジヤマ古墳群	古墳	古墳	円墳 2、木芯粘土室
331	中後 B 遺跡	集落跡	古墳～中世	
	(佐)長窓寺跡	柱寺跡	古代(平安)	中宮八幡、地名伝承のみ
332	中後 C 遺跡	散布地	古墳(平安)～中世	
333	中海道路・吉瀬道路	散布地	縄文	
	岩瀬上野道路	散布地	旧石器	

No.	名 称	種 别	時 代	備 考
334	長寛寺中世墓跡	その他の墓	中世	
335	赤穂谷口遺跡	散布地	縄文	
336	蛭の木谷横穴群	不詳	不詳	存在自身が不明。5基開口とされる
337	赤穂谷寺平ノキ谷横穴群	横穴墓	不詳	横穴3。地下式成4
338	善興寺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八院
339	岩頭城跡	城跡	中世	
340	仏ヶ原城跡	城跡	中世	
341	仏御前原遺跡・仏御前墓	その他の墓	古代(平安)	小松市指定史跡
342	麦口遺跡	散布地	縄文	
343	麦口甲世墓跡	その他の墓	中世	
344	下麦口横穴群	横穴墓	不詳	縄文3
345	岩倉城跡	城跡	中世(室町)	
346	椎の木山道跡	散布地	縄文	
347	昌峰寺跡	社寺跡	不詳	中宮八院
348	義国寺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八院
349	松谷幾寺	社寺跡	古代(奈良)	8世紀前半に遡る古代山林寺跡
350	板谷寺跡	社寺跡	不詳	中宮八院
351	平野學跡(山岸山御所)	城跡	中世(室町)	一例一例・平野某山城址に承認
352	蓮花寺跡	社寺跡	不詳	中宮八院
353	波佐谷通跡	散布地	中世(室町)	
354	波佐谷横穴群 (伝) 波佐谷松岡寺跡	横穴跡	中世(室町)	一例一例・波佐谷波守志城伝承地
355	波佐谷横穴群	横穴墓	不詳	縄文13。地下式成5
356	八坂通跡	散布地	縄文	
357	麻原尾谷通跡	散布地	縄文	
358	松原寺跡	社寺跡	中世(室町)	
359	火打山横穴群	横穴墓	不詳	縄文3
360	こたい谷横穴	横穴墓	不詳	縄文4
361	芦山横穴	横穴墓	不詳	縄文1
362	泡瀬経塚	軽塚	中世(室町)	
363	曾山横穴	横穴墓	不詳	縄文1
364	布積通跡	散布地	縄文	
365	寺ノ根通跡	散布地	縄文	ほかに寺院跡の伝承あり
366	觀音下城跡	城跡	不詳	
367	和氣接山谷奥道跡	生産道跡	古代(平安)	土師器窯成坑、能美古窯跡南群・後山谷支群
368	和氣接山谷乙ノ河跡	生産道跡	古代(奈良末-平安)	須志器窯、能美古窯跡南群・後山谷支群
369	和氣下和氣古窯跡	生産道跡	古代(平安)	須志器窯、能美古窯跡南群
370	和氣近世窯跡	生産道跡	近世	
371	和氣矢口A道跡	散布地	縄文	
372	和氣公文尾道跡	城跡	不詳	
373	和氣中和氣古窯跡	生産道跡	不詳	須志器窯、能美古窯跡南群・後山谷支群
374	唐空藏跡	城跡	中世	
375	唐空藏山横穴群	横穴墓	不詳	
376	寺高古窯跡	生産道跡	不詳	須志器窯、能美古窯跡南群
377	牛宿桑原坂古墳	古墳	古墳	
378	鶴谷社跡	社寺跡	不詳	
379	鶴谷中世墓群	その他の墓	中世	
380	鶴谷横穴	横穴墓	不詳	
381	鶴谷塙跡	城跡	不詳	

参考文献

- イ 石川県教育委員会(1992) 石川県遺跡地図
- 石川県立埋蔵文化財センター(1986) 漆町遺跡I, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1988) 漆町遺跡II, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1988) 辰口西部遺跡群I, 石川県能美市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1988) 白江梯川遺跡I, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989) 漆町遺跡III, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989) 漆町遺跡IV, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989) 白江梯川遺跡II, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989) 蓮代寺地区遺跡I, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1990) 小松市高堂遺跡
- 石川県立埋蔵文化財センター(1993) 能美丘陵東遺跡群I, 石川県能美市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1995) 石川県小松市荒木田遺跡
- 石川県立埋蔵文化財センター(1997) 能美丘陵東遺跡群II, 石川県能美市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1998) 能美丘陵東遺跡群III, 石川県能美市
- (財)石川県埋蔵文化財センター(1999) 能美丘陵東遺跡群IV, 石川県能美市
- (財)石川県埋蔵文化財センター(1999) 能美丘陵東遺跡群V, 石川県能美市

- (財) 石川県埋蔵文化財センター (1999) 辰口町上徳山谷山西谷窯跡, 石川県能美市
- (財) 石川県埋蔵文化財センター (2002) 加賀市柴山貝塚・柴山出村遺跡
- (財) 石川県埋蔵文化財センター (2006) 小松市矢田野遺跡群
- (社) 石川県埋蔵文化財保存協会 (1993) 小松市林遺跡
- (社) 石川県埋蔵文化財保存協会 (1998) 石川県小松市八幡遺跡 I
石川考古学研究会 (1988) 石川県城館跡分布調査報告
- ウ 上野 興一 (1965) 考古篇, 小松市史 4. 風土・民俗篇, 小松市教育委員会, 石川県
- 力 軽海用水誌編纂委員会 (1996) 軽海用水誌, 小松東部土地改良区, p75-77. p201-221. 石川県
- コ 小松市教育委員会 (1988) 念仏林遺跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (1990) 湯上谷古窯跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (1990) 二ツ梨東山古窯跡・矢田野向山古窯跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (1992) 矢田野エジリ古墳, 石川県
- 小松市教育委員会 (2000) 矢田借屋古墳群, 石川県
- 小松市教育委員会 (2003) 八日市地方遺跡 I, 石川県
- 小松市教育委員会 (2004) 佐々木遺跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (2004) 八里向山遺跡群, 石川県
- 小松市教育委員会 (2005) 小松市内遺跡発掘調査報告書 I. 二ツ梨豆岡向山窯跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (2006) 小松市内遺跡発掘調査報告書 II. 矢田借屋古墳群, 石川県
- 小松市教育委員会 (2006) 千代才オキダ遺跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (2006) 小野遺跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (2006) 頬見町遺跡 I, 石川県
- 小松市教育委員会 (2007) 小松市内遺跡発掘調査報告書 III. 薬師遺跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (2007) 頬見町遺跡 II, 石川県
- 小松市教育委員会 (2008) 頬見町遺跡 III, 石川県
- 小松市教育委員会 (2009) 頬見町遺跡 IV, 石川県
- 小松市教育委員会 (2010) 頬見町遺跡 V, 石川県
- 小松市教育委員会 (2011) 小松市内遺跡発掘調査報告書 VII. 矢崎宮の下遺跡・薬師遺跡 V 次, 石川県
- 小松市教育委員会 (2014) 大川遺跡, 石川県
- 小松市史編纂委員会 (2001) 新修小松市史 3. 九谷焼と小松瓦, 小松市, 石川県
- 小松市史編纂委員会 (2002) 新修小松市史 4. 国府と莊園, 小松市, 石川県
- タ 辰口町教育委員会 (1982) 辰口町下開発茶臼山古墳群, 石川県能美市
- 辰口町教育委員会 (1985) 辰口町湯屋古窯跡, 石川県能美市
- 辰口町教育委員会 (2001) 辰口町湯屋古窯跡 III, 石川県能美市
- 辰口町教育委員会 (2004) 下開発茶臼山古墳群 II, 石川県能美市
- 辰口町教育委員会 (2005) 和氣後山谷窯跡群, 石川県能美市
- テ 寺井町教育委員会 (1997) 加賀能美古墳群, 石川県能美市
- ハ 日置 謙 (1923) 石川県能美郡誌, 能美郡役所, p366-375. p642. p823. p1268-1269. p1342-1343. 石川県
- 日置 謙 (1925) 石川県江沼郡誌, 江沼郡役所, p679., 石川県
- ホ 北陸中世土器研究会 編 (1997) 中・近世の北陸, 桂書房, p193-208.

第Ⅱ章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

石川県土木部の地方道改築事業 南加賀道路（粟津ルート）に係る矢田新遺跡の発掘調査は、(公財)石川県埋蔵文化財センター（以下「財埋」）によって、平成26～27年度の2カ年に渡って発掘調査が実施された。この調査の完了をもって、南加賀道路（粟津ルート）の未着工部分の工事が着手されたが、沿線の工場にアクセスする道路の新設が必要だった。平成27年度の調査は、本線の新設道路の一部に当たる区域の調査であった。

この時点で、石川県では北陸新幹線に係る大規模な発掘調査が控えていた。民間の支援業務も積極的に活用してもなお保有するリソースの多くを必要とするものだった。これに伴い、県内で発掘調査対応となっている県事業を管内の各市町に委託する方針が決定された。矢田新遺跡発掘調査もそのうちの一つだった。

北陸新幹線に関しては、これに伴う住宅移転に係る発掘調査は小松市が対応することになり、小松市としてこれへの対応も必要であり、県教委から打診のあった矢田新遺跡の発掘調査面積は1,410m²であり、この規模は現有の調査体制では対応が厳しく、受託のする場合のシミュレーションを、直営で発掘調査する場合と民間の支援業務を活用する場合の両方で行なったところ、どちらの場合でも予算規模に大きな違いが出ない設計が可能と分かった。

最終的に、県文化財課と南加賀土木事務所との現地打ち合わせを経て、民間の支援業務を活用する前提で当該調査を受託することとなった。



図4 矢田新遺跡 調査地位置図 (S=1:50,000)

石川県南加賀土木総合事務所長からの依頼は平成28年4月1日付け、小松市からは4月28日付で受託する旨の回答をした。

5月に入ってからは、市内で北陸新幹線建設に伴う住宅移転に係る調査2件に対応するために、始まって早々ではあるが、6月までほぼ2ヶ月間、事務を中断せざるを得なくなつた。

発掘調査費用が凡そ煮詰まって、石川県知事と小松市長の間で矢田新遺跡発掘調査に関する委託契約を締結したのは6月27日付け、さっそく、これを民間業者に委託するために入札の準備に取りかかり、入札日は8月1日、翌日の改札の結果、契約先は株式会社太陽測地社に落札決定した。

発掘調査に着手したのは8月29日だった。当初目論んでいた着手時期よりちょうど1ヶ月遅れでの着手となった。

第2節 調査の概要

南加賀道路（栗津ルート）に係る発掘調査の最後の区域でもあり、周辺に土置場がない上に、周辺の畑作は継続されており、農道を通行止めにできないという制約があったことから、調査区は畑部分（I・II区）と農道部分（III区）とし、畑部分の調査を完了したところでここに仮設道路を設置（工事は南加賀土木総合事務所に依頼）して迂回路とすることにより対応した。I・II区の区分は、土置場の都合で2回に分けただけであり、それ以上の意味はない。

グリッドは10mスパンで設定し、原点は、図5のB1を原点とし、農道の境界杭の（なるべく遠い）任意の一つを後視点として選点して座標軸を設定した。後視点は座標のみ記録し、グリッド設定後に任意のタイミングで取り扱われた。

遺構番号については、種別に拘らずすべて通し番号でI区は101～、IIは201～、III区は301～と予め設定したが、結果的には遺構が少なく、すべて101～からの通し番号で、現地調査終了後にIII区のみ301～番号を振り直した。

発掘調査では、まず20cmほどの包含層直下に地山面があるとの事前情報を受けていたが、実際はもっと浅く、最小で5cm、という箇所もあった。

遺構と遺物も、1,410m²という面積を考慮すれば少なく、前年の平成27年度の財埋調査区に接続するA2～A3区に極端に集中する状況だった。言い換えれば、この区域以外では極めて分布が希薄だったといえる。

だが、全く何もなかったことはなく、時代不明ながら、巨大な土坑が2基発見され、うち1基があつた場所は、調査着手直前まで、畑の土が肥料ごと雨水で流出することに耕作者が悩まされ続けていたそうだ。少なくともその原因が突き止められた。

発掘調査は、年内での完了・引き渡しが可能な日程調整をしつつ、予想より遺構と遺物が少なかつたことも相俟って、12月14日にすべての作業を完了することができた。

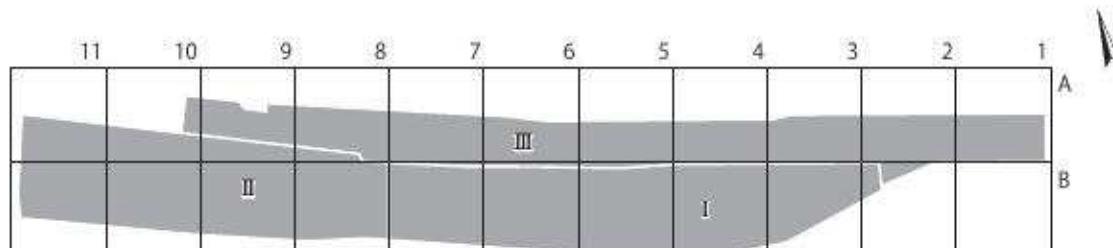


図5 矢田新遺跡 グリッド配点図(S=1:800)

第3節 出土品整理

出土品整理は、契約では平成28年度中に一部着手する予定だったが、発掘調査完了時点で、翌年1年あれば十分完了可能と判断し、出土品整理を平成29年度に着手することとした。

作業員1名を新規に雇用することになったため、実質的に作業に入ったのは5月からで、出土品整理のすべて（洗浄、記名、分類、接合、実測、拓本、トレース）を手解きしながら進めなければならない上に、2月の豪雪の影響で約1週間作業が止まるなど、経過日数と残り日数を気にしながらの舵取りとなった。

第Ⅲ章 遺構と遺物

第1節 遺構（図版1～19）

(1) SX101（図版15）

既存の灌漑用パイプラインが横切っていることもあり、プランがつかみ切れない。セクションによる限り、掘削に伴う残土が底部に溜まっている。埋め戻された痕跡もなく、出土遺物も疎らに含まれていた。

(2) SX102（図版16）

これも不定形な浅い掘り込み。埋め戻された痕跡もなく、表層の土壌が流れ込んで埋まっている。出土遺物は疎らである。

(3) SX103（図版17）

楕円形プランで幅が短軸で10m以上、深さ3m以上もある巨大な土坑である。地山埴土層下の砂層まで到達している。掘方には重機棟を使った痕跡はなく全て手掘り掘削と考えられ、埋土は、少なくとも3層以下は手作業による埋め戻しと考えられる。1～2層は、調査地が現在の地形になった時の整地層であろう。出土遺物はこの埋め戻し層に包含されていたものだが、掘削や埋め戻した年代と直接関わるものとは言えない。

(4) SX130（図版18）

性格はSX103と同じ土坑と考えられる。こちらはプランも掘方も「形」として捉えられるものではなく、掘削は任意の深さで止め、上端と下端線は便宜的に引いたに過ぎないものだが、幅が短軸で約10m、深さ約2mである。

この土坑はほとんど埋め戻されておらず、掘削場所は緩やかな谷地形の底にあたる。最終的に整地層で埋まるのだが、これが不十分であったために、大きな凹みが調査時点でも残っており、これが農道につながっていたことが、畑の土の流出に大きな影響を及ぼしていた。

(5) SX301・303（図版19）

プランは略方形、明瞭な掘方を持つ土坑である。記号に関しては、今回調査に限っては、調査期間の終盤に差し掛かるまで有意な遺構が発見されなかったことから全て「SX」で統一したが、この2基と302は「SK」と読み替えてよい。

いずれも埋め戻された痕跡もなく、表層の土壌が流れ込んで埋まっている。出土遺物は疎らである。

第2節 遺物（図版20～24）

(1) 古代の土器（1～35）

1～28は須恵器である。21～23が最も古く7世紀前半頃、ほか、24～28は8世紀後半頃か。1～16は甕である。他にも横瓶等の可能性があるが、口縁部等の特定部位の破片はなく、便宜的に全て「甕」とした。

17～20は壺または瓶である。

21は須恵器の無蓋高环の环部片と思われる。

22～23は环H蓋である。身の部分は今回の出土品にはなかった。

24は环Bの蓋、25～26は环A、27は环B、28は盤Bである。

29～35は土師器である。資料としてまとめではなく、最も古いと思われるものが29で8世紀前半、最も新しいと思われるものが32～33の9～10世紀代である。

29～30は甕（釜）の口縁部、31は頸部、32～33は胴部から底部である。

34～35は椀（または皿）の底部である。

(2) 中世～近世の土器（36～59）

36～43は無釉の焼き締め陶器（炻器）であり、44・45は周囲を加工した陶片である。

46～48は瓦質土器の火鉢または小型鉢（香炉）である。

49～53はカワラケである。52は口縁部に油煤の付着が認められる。

54～59は近世以降の陶磁器であり、少なくとも55～58は17～18世紀代の肥前系と思われる。

(3) その他の遺物（60～71）

60は銅製の簪と思われる。

61～62は、行火である。凝灰角礫岩は軽石質で、見かけの大きさに比してかなり軽い。

63～65は砥石である。使用による変形が著しい63は、波打つような磨り減り方から鉄製の刃物に対して使用されたことが明らかである。

66～71は、先史時代の石器であり、該当する時期の土器が調査で得られなかったことから時期については言及できないものの、70の磨製石斧は基部が細い撥形を呈しており、このタイプは縄文時代後期以降といえる。円礫の一端を割った（ように見える）68の下辺の剥離は使用痕と思われ、同様の素材の69は両極打撃が認められる。

これら先史時代の石器については、平成27年度の財埋調査で縄文時代晚期から弥生時代時代初めにかけての遺構が検出されており、これらに関連する遺物の可能性も考慮しておくにとどめる。

表2 矢田新遺跡 遺物属性表

図版	番号	実測	出土位置	分類	器形	寸法/残率	表面色調	胎土色調	備考
20	1	な14	SX102	須恵器	甕		10YR 8/3 - 25YR 6/6	7.5YR 7/3	
20	2	な01	SX103	須恵器	甕		N 6/0 - 5/0	N 7/0 - 5/0	
20	3	な03	SX103	須恵器	甕		N 6/0 - 4/0	2.5Y 7/3 - 6/3	
20	4	な12	SX103 トレンチ	須恵器	甕		N 6/0	10YR 7/3	
20	5	に04	SX103	須恵器	甕		N 8/0 - 7/0	10YR 7/2	
20	6	に06	P104	須恵器	甕		N 7/0 - 6/0	N 7/0	
20	7	に02	SX130	須恵器	甕		N 7/0 - 5/0	N 7/0	
20	8	な07	SX130	須恵器	甕		N 6/0	10YR 7/3	
20	9	な08	SX130	須恵器	甕		N 6/0 - N 5/0	N 7/0	
20	10	な06	SX130	須恵器	甕		N 5/0 - SGY 4/1	5YR 6/2 - 5/1	
20	11	な05	B5gr	須恵器	甕		N 7/0 - 6/0	2.5Y B/2 - 7/1	
20	12	な02	A8gr	須恵器	甕		N 6/0 - 5/0	N 6/0	
20	13	な04	B8gr	須恵器	甕		N 6/0	N 6/0 - 5/0	
20	14	に09	B8gr	須恵器	甕		N 5/0 - 2/0	N 5/0	自然釉

図版	番号	実測	出土位置	分類	器形	寸法 / 残率	表面色調	胎土色調	備考
20	15	に 11	B8gr	須恵器	甕		2.5Y 7/2 - N 5/0	N 6/0	
20	16	に 01	B8gr	須恵器	甕		N 7/0 - 6/0	N 6/0	
		な 09	SX130	須恵器	甕		N 6/0 - N 5/0	7.5YR 6/2 - 6/1	
		な 10	SX102	須恵器	甕		N 6/0 - N 5/0	10YR 7/3	
		な 11	SX103 トレンチ	須恵器	甕		N 7/0 - 5/0	N 7/0	
		な 13	IIX	陶器	大甕		N 6/0 - 5/0	10YR 6/2 - 6/1	
		な 25	SX103	須恵器	环 B 蓋	口: 18cm/0.139	N 5/0	N 5/0	焼成時の歪み
		に 03	A3gr	須恵器	甕		N 7/0 - 4/0	2.5Y 7/3	
		に 05	B8gr	須恵器	甕		N 6/0 - 5/0	N 5/0	
		に 07	P104	須恵器	甕		N 7/0 - 6/0	N 7/0	
		に 08	SX101	須恵器	甕		N 6/0 - 5/0	N 5/0	自然釉
21	17	な 42	SX130	須恵器	甕	高: 14cm/0.083	10YR 8/1 - 7/1	10YR 7/3	
21	18	な 27	A3gr	須恵器	甕		N 7/0	N 7/0	
21	19	な 31	B8gr	須恵器	甕	底: 10cm/0.306	N 6/0 - 4/0	N 6/0	
21	20	な 18	A3gr	須恵器	壺か瓶	底: 14cm/0.167	2.5GY 6/1 - 5/1	2.5GY 6/1	
21	21	な 26	A3gr	須恵器	高杯		N 5/0	N 5/0	
21	22	な 30	SX103	須恵器	环 H 蓋	口: 14cm/0.056	7.5YR 6/2 - N 5/0	N 5/0	7c 前半
21	23	な 35	IIX	須恵器	环 H 蓋		N 5/0 - 4/0	N 5/0	7c 前半
21	24	な 24	IIX	須恵器	环 B 蓋	口: 16cm/0.083	N 6/0	N 6/0	7c 前半
21	25	な 36	B8gr	須恵器	甕 B	底: 20cm/0.111	N 7/0 - 5/0	N 7/0	根に軸用
21	26	な 32	SX101	須恵器	环 A	底: 13cm/0.083	N 7/0 - 5/0	N 7/0	
21	27	な 33	SX103	須恵器	环 A	底: 12cm/0.111	7.5Y 7/1	10YR 6/3	
21	28	な 34	A3gr	須恵器	环 B	台: 12cm/0.194	N 7/0 - 5/0	N 7/0	
21	29	な 54	B5gr	土師器	釜	口: 22cm/0.042	5YR 7/6 - 7.5YR 7/4	7.5YR 7/4	8c 前半?
21	30	な 52	B4gt	土師器	釜		7.5YR 8/3 - 7/6	7.5YR 8/3	9c 前半
21	31	な 53	SX103	土師器	釜	高: 20cm/0.139	5YR - 7.5YR 7/6	7.5YR 7/6	
21	32	に 16	B10gr	土師器	釜	底: 9cm/0.889	10YR 8/3 - 7/4	10YR 8/4	9 ~ 10c
21	33	な 15	SX102	土師器	碗	底: 6cm/0.722	10YR 7/6 - 7.5YR 6/3	7.5YR 7/4 - 6/4	
21	35	な 16	SX103 トレンチ	土師器	碗	底: 8cm/0.250	7.5YR 7/4	10YR 8/4	
		な 17	SX103	土師器	釜か鍋		5YR 7/6 - 6/6	5YR 7/6	
		な 20	SX102	土師器	釜か鍋		7.5YR 7/4 - 6/3	7.5YR 7/3	
		な 51	SX103	土師器 ?	鏡?	口: 22cm/0.083	7.5YR 8/2 - 7/3	7.5YR 7/3 - 10YR 5/1	
22	36	な 29	SX102	(鉢器)	大甕	口: 40cm/0.083	N 6/0 - 7.5YR 2/1	N 6/0	
22	37	な 40	SX130	越前	大甕		10YR 6/1 - 3/2	10YR 6/2	14c 前半?
22	38	な 41	B8gr	越前	壺		N 6/0	N 6/0	13c?
22	39	な 43	B8gr	越前	壺		N 5/0	N 5/0	13c?
22	40	な 28	SX301	越前	擂鉢	口: 32cm/0.083	7.5YR 4/2	N 5/0	
22	41	に 14	SX130	越前	擂鉢	底: 15cm/0.083	7.5YR 6/3 - 6/2	5Y 6/2	
22	42	に 13	SX103	珠洲	擂鉢	底: 10cm/0.111	5Y 6/1 - 5/1	2.5Y 6/1	
22	43	に 12	A3gr	珠洲	擂鉢		7.5Y 5/1	7.5Y 5/1	15c 後半
22	44	に 15	A3gr	越前	擂鉢	長: 3.9cm, 幅: 3.3cm, 厚: 1.6cm, 重: 25.2g	2.5YR 4/3	2.5YR 6/4	破片加工陶片
22	45	に 10	SX101	珠洲	甕	長: 2.3cm, 幅: 2.0cm, 厚: 1.3cm, 重: 6.1g	N 6/0 - 5/0	N 5/0	破片加工陶片
22	46	な 37	A2gr	瓦質土器	火鉢		2.5Y 3/1 - 2/1	10YR 8/3 - 7/3	
22	47	な 38	B8gr	瓦質土器	火鉢		2.5Y 3/1 - 2/1	10YR 8/3 - 7/3	
22	48	な 39	SX130	瓦質土器	小型鉢		2.5Y 3/1	10YR 8/3 - 6/1	
22	49	な 55	SX130	かわらけ	皿	口: 7cm/0.500, 高: 1.5cm	10YR 8/3	10YR 8/3	
22	50	な 58	B5gr	かわらけ	皿	口: 9cm/0.139, 高: (2.1)cm	10YR 8/4	10YR 8/4	
22	51	な 56	SX101	かわらけ	皿	口: 9cm/0.056, 高: (2.1)cm	10YR 8/4 - 8/2	10YR 7/3 - 7/1	
22	52	な 57	SX130	かわらけ	皿	口: 9cm/0.194, 高: (1.5)cm	10YR 8/3 - 4/1	10YR 8/3 - 4/1	油膜あり
22	53	な 59	SX303	かわらけ	皿	口: 10cm/0.111, 高: 2.0cm	7.5YR 8/4 - 8/2	7.5YR 8/2	な 60 と同一個体
22	54	な 60	SX303	かわらけ	皿	口: 10cm/0.028.111, 高: 2.0cm	7.5YR 8/4 - 8/2	7.5YR 8/2	な 59 と同一個体
22	55	な 47	B8gr	(陶器)	椀	口: 12cm/0.111	5Y 5/3 (灰釉)	2.5Y 7/2	近世
22	55	な 45	SX130	肥前	椀	台: 4cm/0.639	7.5Y 6/2 (灰釉)	2.5Y 6/1	近世
22	56	な 48	B8gr	肥前	椀	口: 12cm/0.222	10YR 7/1 (灰釉)	2.5Y 7/2	近世
22	57	な 46	B8gr	肥前	椀	口: 12cm/0.083	無色 (長石釉)	7.5Y 8/1	近世
22	58	な 49	SX130	肥前	椀	台: 6cm/0.806	無色 (長石釉)	N 8/0	近世
22	59	な 50	B8gr	(陶器)	椀	口: 9cm/0.139	5Y 7/2 - 5/2 (磁灰釉)	10YR 7/2 - 7/1	近世
22	60	せ 12	P152	銅製品	簪	長: (11.1)cm, 幅: 1.1cm, 厚: 0.3cm, 重: 11.93g			
		な 19	B8gr	越前	大甕		2.5Y 6/1 - 2.5YR 5/3	N 6/0	
		な 21	SX130	越前	大甕		2.5Y 8/1 - 7.5Y 5/3	7.5Y 8/2	
		な 22	SX130	越前	大甕		5Y 5/3	7.5YR 8/4 - 2.5YR 6/1	
		な 23	B8gr	越前	大甕		10YR 7/3	N 5/0	
		な 44	B7gr	(陶器)	大皿		10YR 2/1 - 5Y 4/2 (黒釉)	10YR 8/6	近世在地?
23	61	せ 10	B8gr	石製品	行火	長: (14.4)cm, 幅: (9.0)cm, 厚: (4.8)cm, 重: 405.1g, 深灰角礫岩			
23	62	せ 11	SX103	石製品	行火	長: (8.6)cm, 幅: (7.1)cm, 厚: (3.0)cm, 重: 116.8g, 鮮石質深灰角礫岩			
23	63	せ 06	SX101	石製品	砥石	長: 15.8cm, 幅: 6.3cm, 厚: 6.9cm, 重: 1.017.4g, ホルンフェルス			
23	64	せ 04	SX101	石製品	砥石	長: (4.7)cm, 幅: 4.4cm, 厚: 3.0cm, 重: 89.4g, 褐灰岩			
23	65	せ 05	P321	石製品	砥石	長: (6.1)cm, 幅: (4.5)cm, 厚: (5.7)cm, 重: 169.7g, ホルンフェルス			
24	66	せ 01	B8gr	石器	磨石類	長: 9.2cm, 幅: 8.1cm, 厚: 4.4cm, 重: 447.9g			
24	67	せ 03	B8gr	石器	磨石類	長: (6.6)cm, 幅: (6.5)cm, 厚: 6.4cm, 重: 376.5g, 珊岩			
24	68	せ 09	SX102	石器	磨端片	長: 11.1cm, 幅: 14.9cm, 厚: 4.6cm, 重: 706.2g, 滑紋岩			
24	69	せ 02	SX130	石器	両輪切離	長: 12.9cm, 幅: 6.6cm, 厚: 2.5cm, 重: 246.6cm, 变形安山岩			
24	70	せ 08	SX130	石器	磨製石斧	長: 13.0cm, 幅: 6.2cm, 厚: 3.4cm, 重: 345.2g, ホルンフェルス			
24	71	せ 07	SX130	石器	剥片	長: 5.0cm, 幅: 3.2cm, 厚: 1.0cm, 重: 16.1g, 黒色安山岩			

第IV章　まとめ

本報告に係る調査区は、(公財)石川県埋蔵文化財センター平成27年度B調査区の南に接続する位置にある。結果から言えば、財埋調査区からの遺構の分布はここに接続する市調査区のA2～A3グリッドのみで、ほかは関連しない別遺構および削平等による遺構の消滅した範囲と考えられる。

目立つ遺構として、SX103・130を挙げることができ、今回報告する遺物の多くはこれらを埋め戻した層から出土したが、これらは必ずしも掘削年代を推定する根拠にはならない。

SX103・130に共通するのは、幅10mを越える範囲を地山の粘土層下の砂層まで数mの深さを手掘りで掘削していることである。土木機械を使用したような痕跡は掘方に認められない。

これらの埋め戻し作業が行なわれた時期は2回ある。

1回目はSX103の埋め戻しであり、表土の黒ボク質土と地山の粘土層が幾重も層を成して擂鉢状の凹地になる程度までは埋まっている。掘削時と同じく手作業による埋め戻しである。本報告の古代～中世の遺物は主にこの層から出土した。SX130は、この段階ではほぼ埋め戻されていないと考えられる。

2回目は現在まで続く畠地の状態までの埋め戻しであり、SX130の擂鉢状の凹地とSX130の殆どを埋め戻している。ただSX130の埋め戻しは不十分で、写真図版2の俯瞰から、皿状の大きな浅い凹みがよく分かる。この写真による限り、東西約10m、南北約30mに渡って掘削されたようだ。

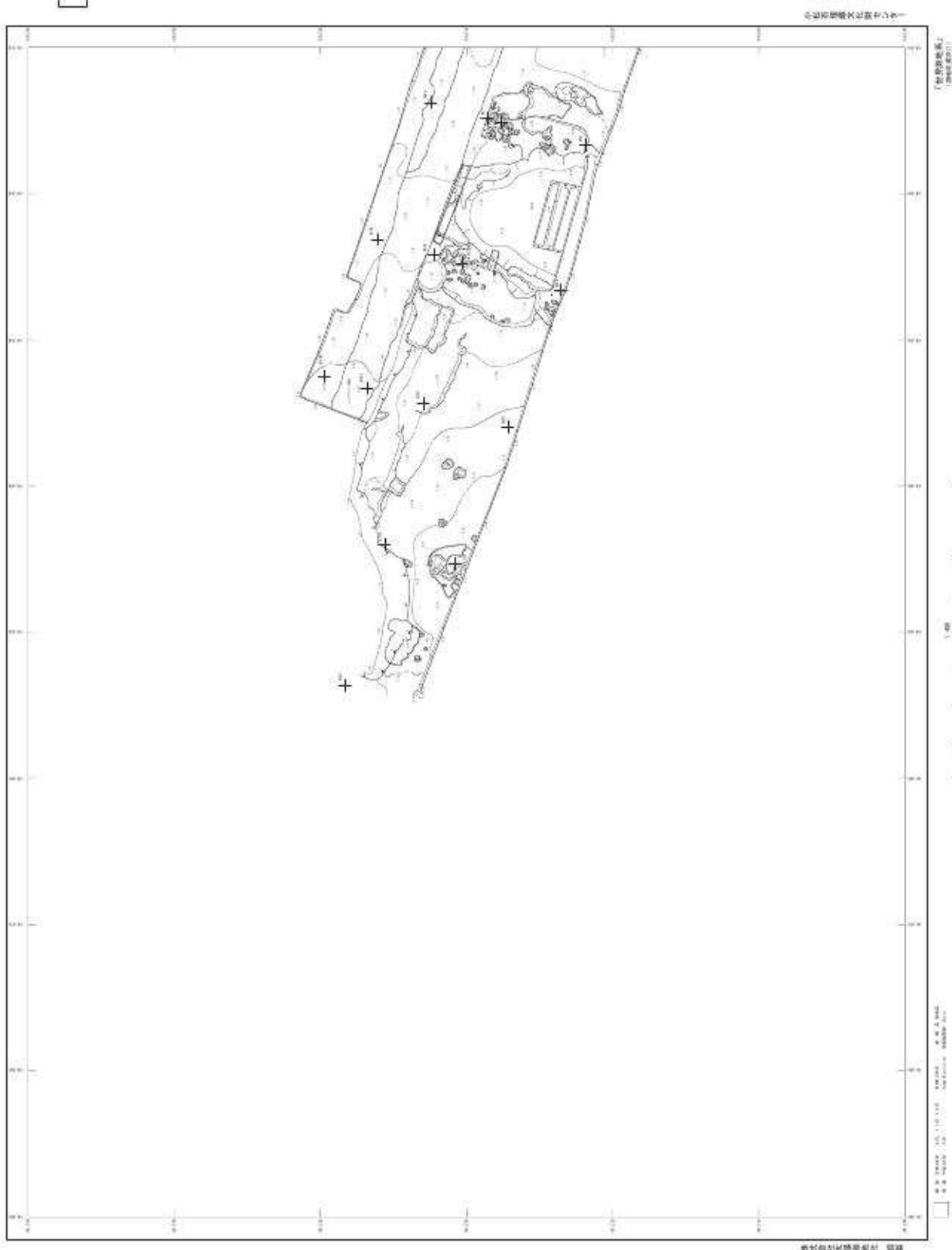
掘削時期について、地元矢田新町に口承はなく、同町は近世の大聖寺藩領の時代から存続する集落であることから、集落(矢田新村)成立の時点で、少なくとも1回目の埋め戻しは完了していたと推定される。

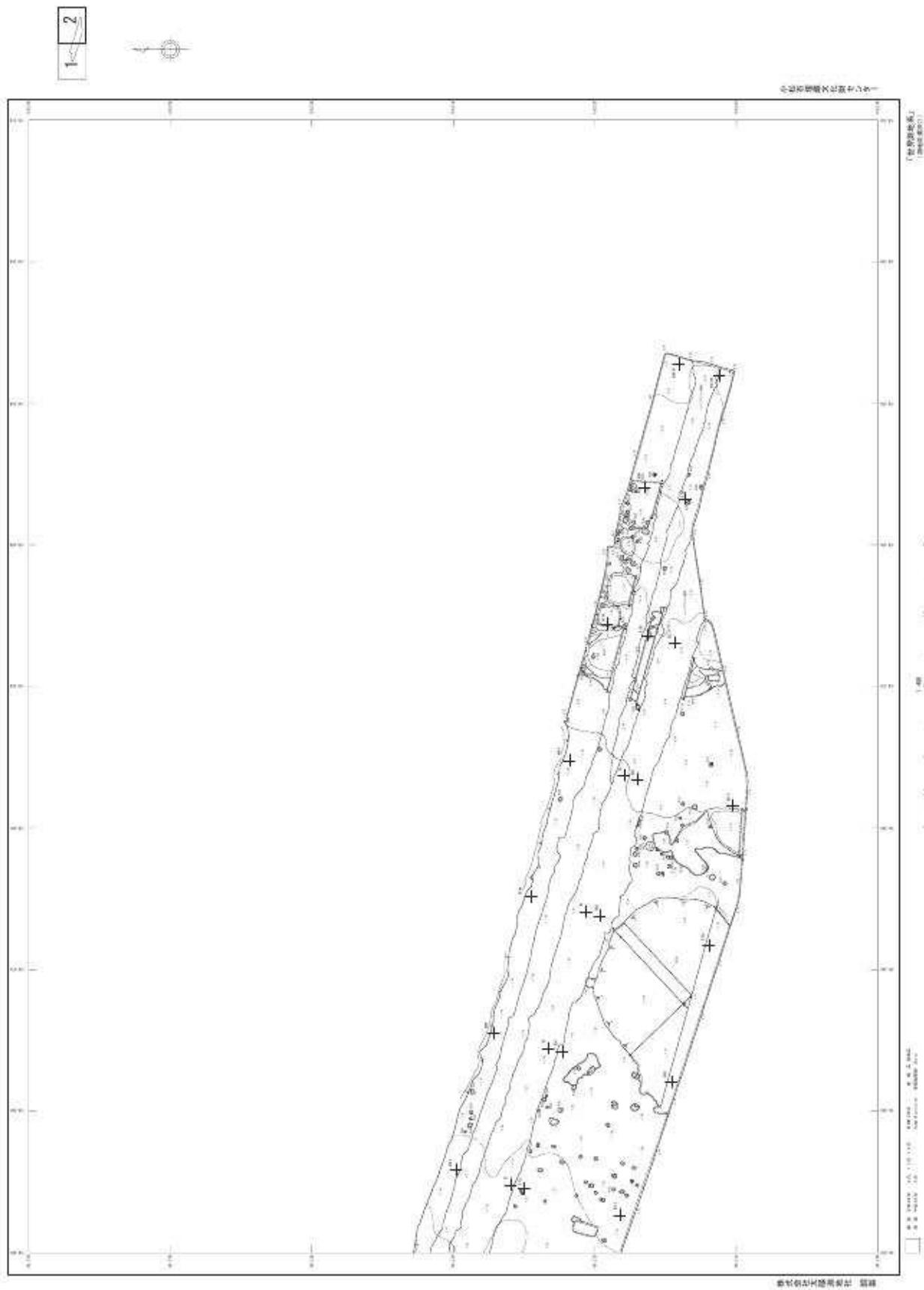
55～58の陶磁器はこの矢田新村の時代のものであり、SX130を埋め戻した層の出土である。したがって、2回目の埋め戻しは、この時代に村人によって行なわれたと考えられる。

参考文献

- 小松市教育委員会 2011年『小松市内遺跡発掘調査報告書VII』
- 小松市教育委員会 2018年『小松市内遺跡発掘調査報告書XIII』
- (公財)石川県埋蔵文化財センター 2015『石川県埋蔵文化財情報』第34号
- (公財)石川県埋蔵文化財センター 2016『石川県埋蔵文化財情報』第35号

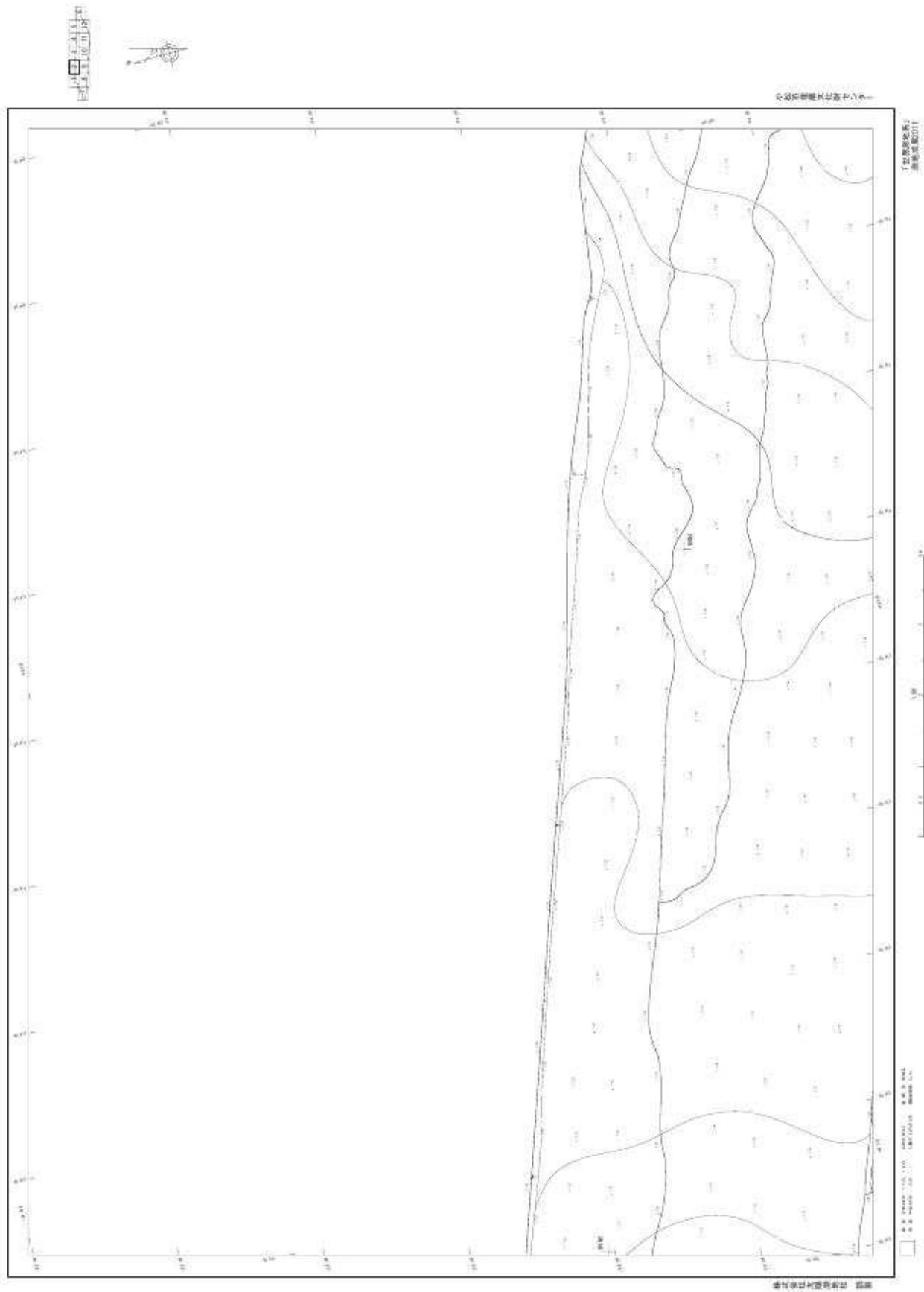
図版 1 平成28年度 矢田新遺跡 平面図 1



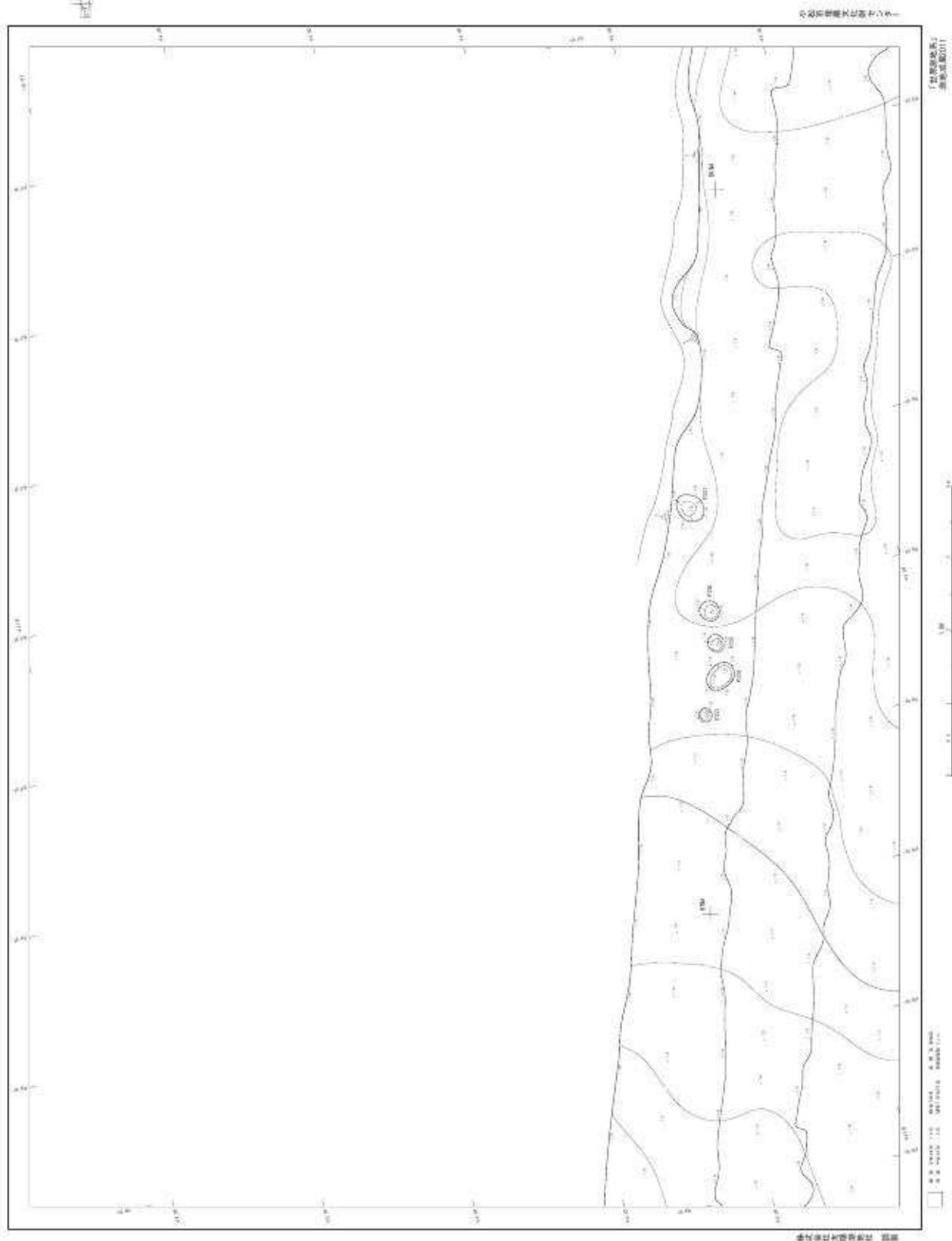




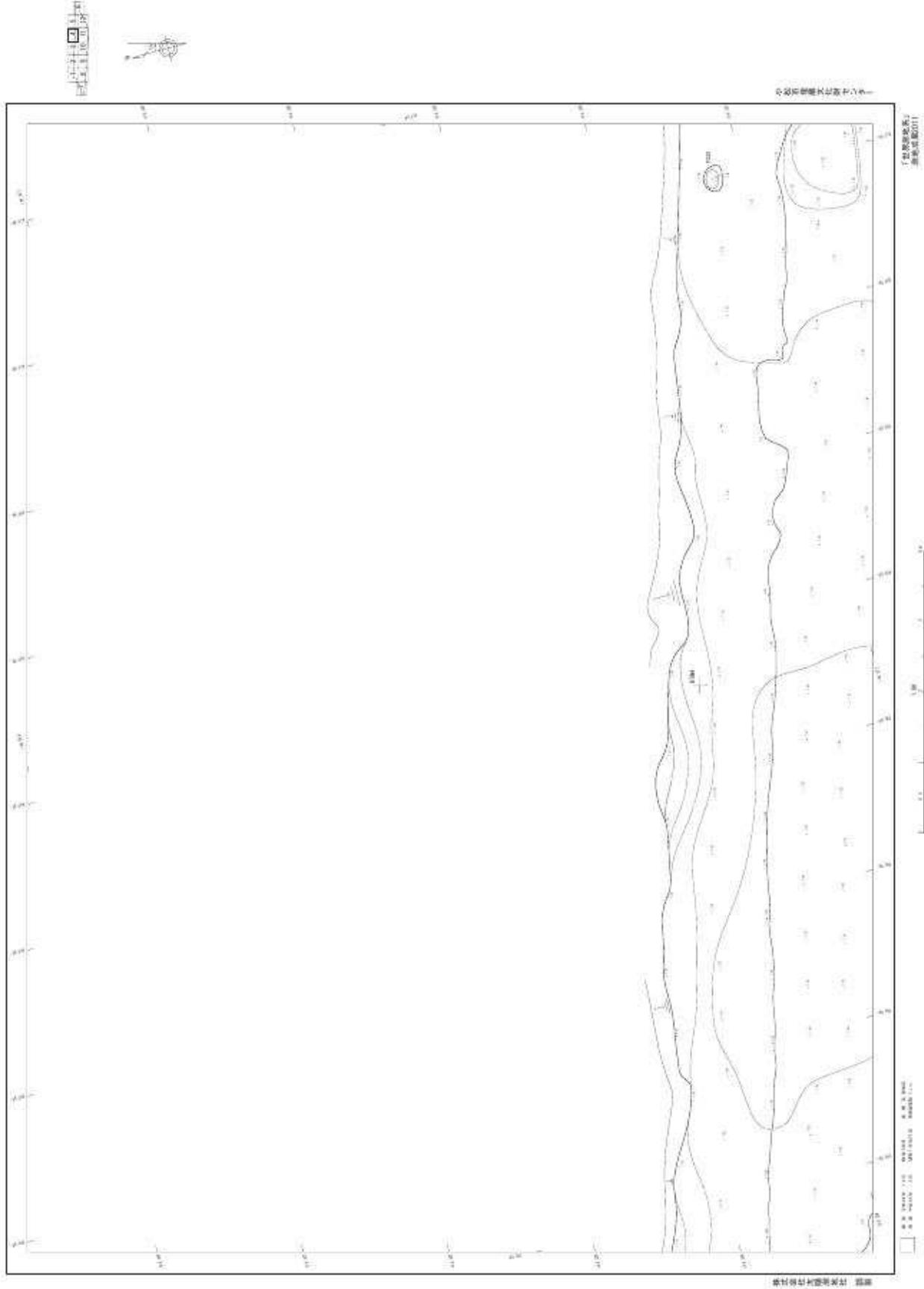
図版 4 平成28年度 矢田新遺跡 平面図 4

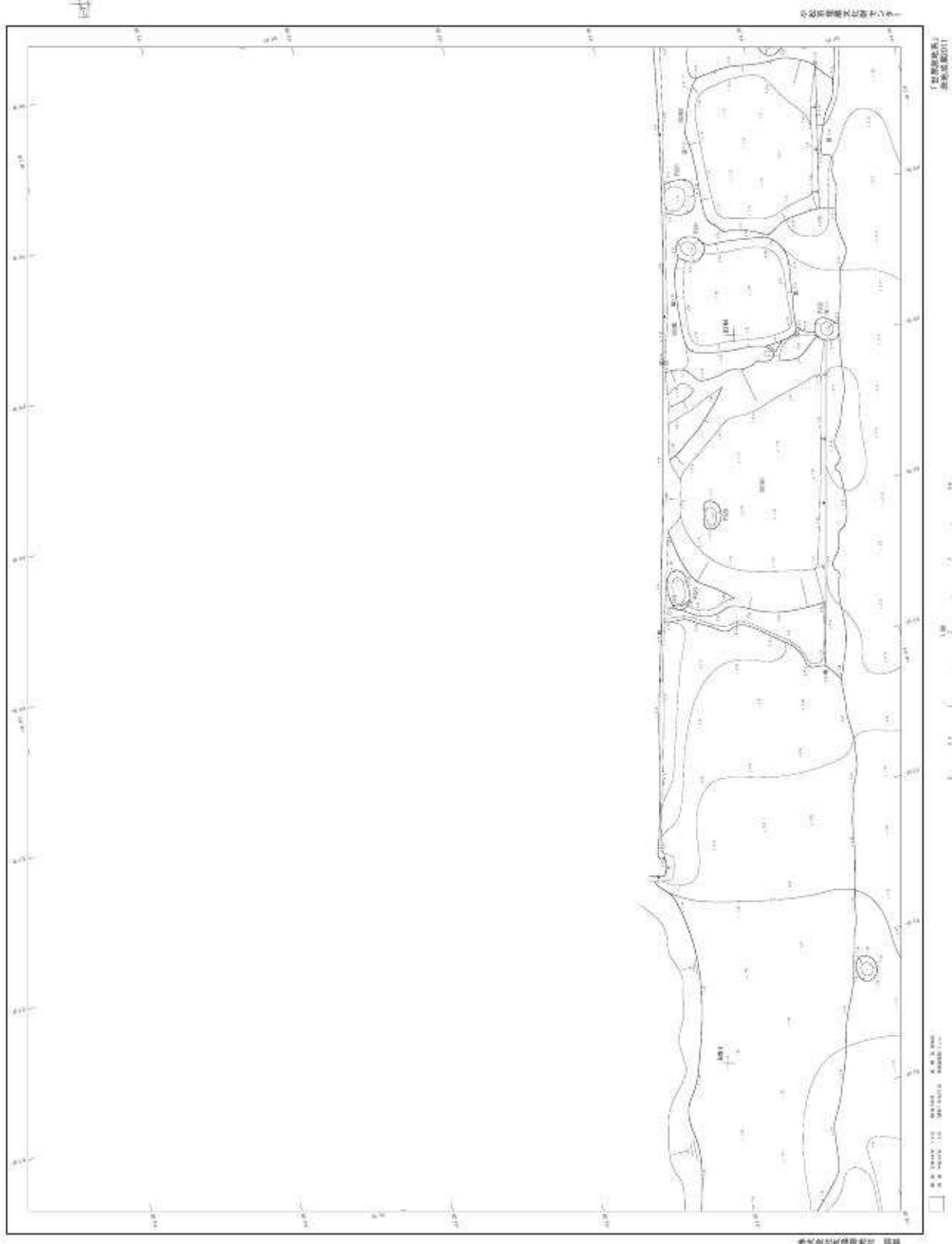


図版 5 平成28年度 矢田新遺跡 平面図

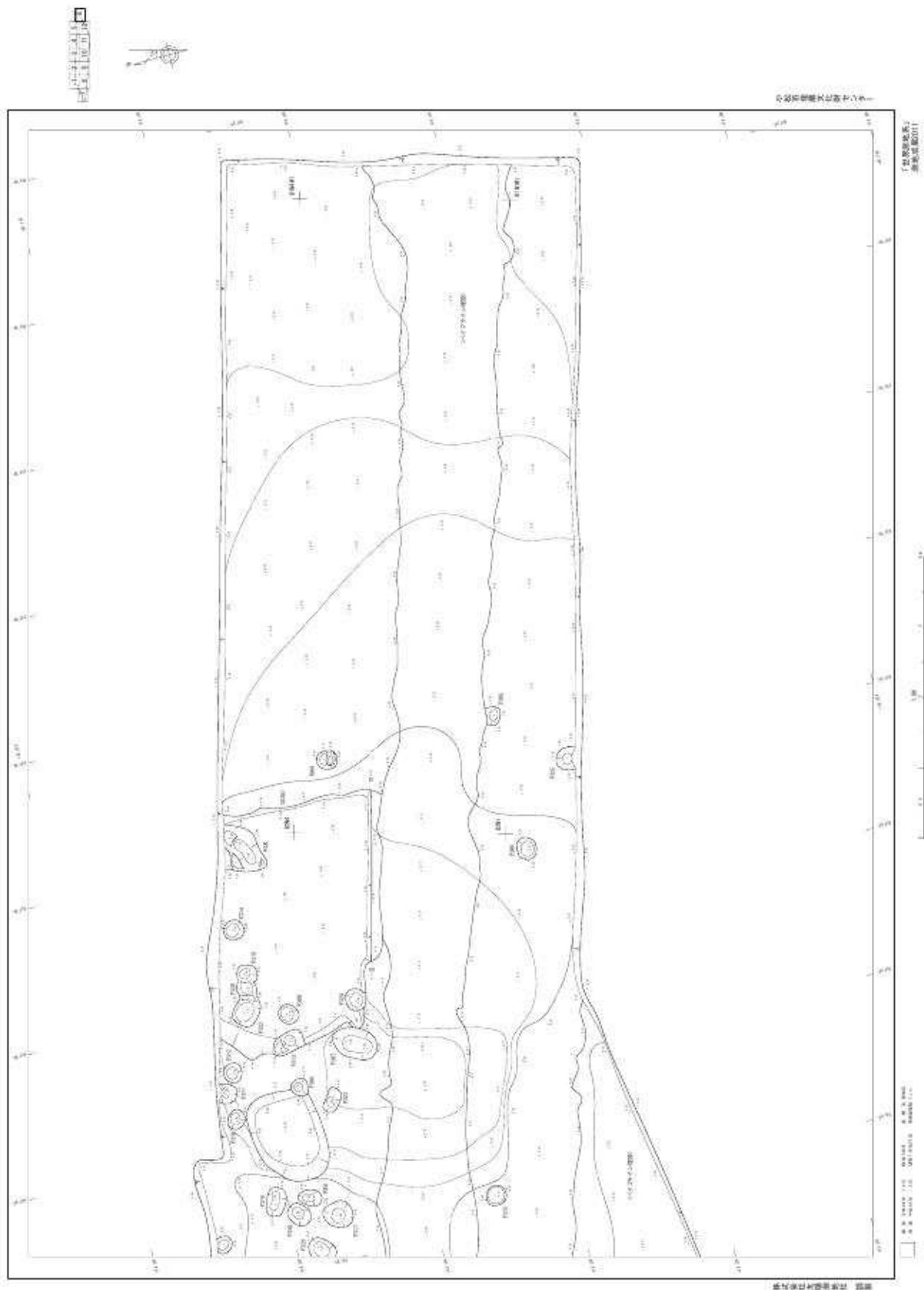


図版 6 平成28年度 矢田新遺跡 平面図 6



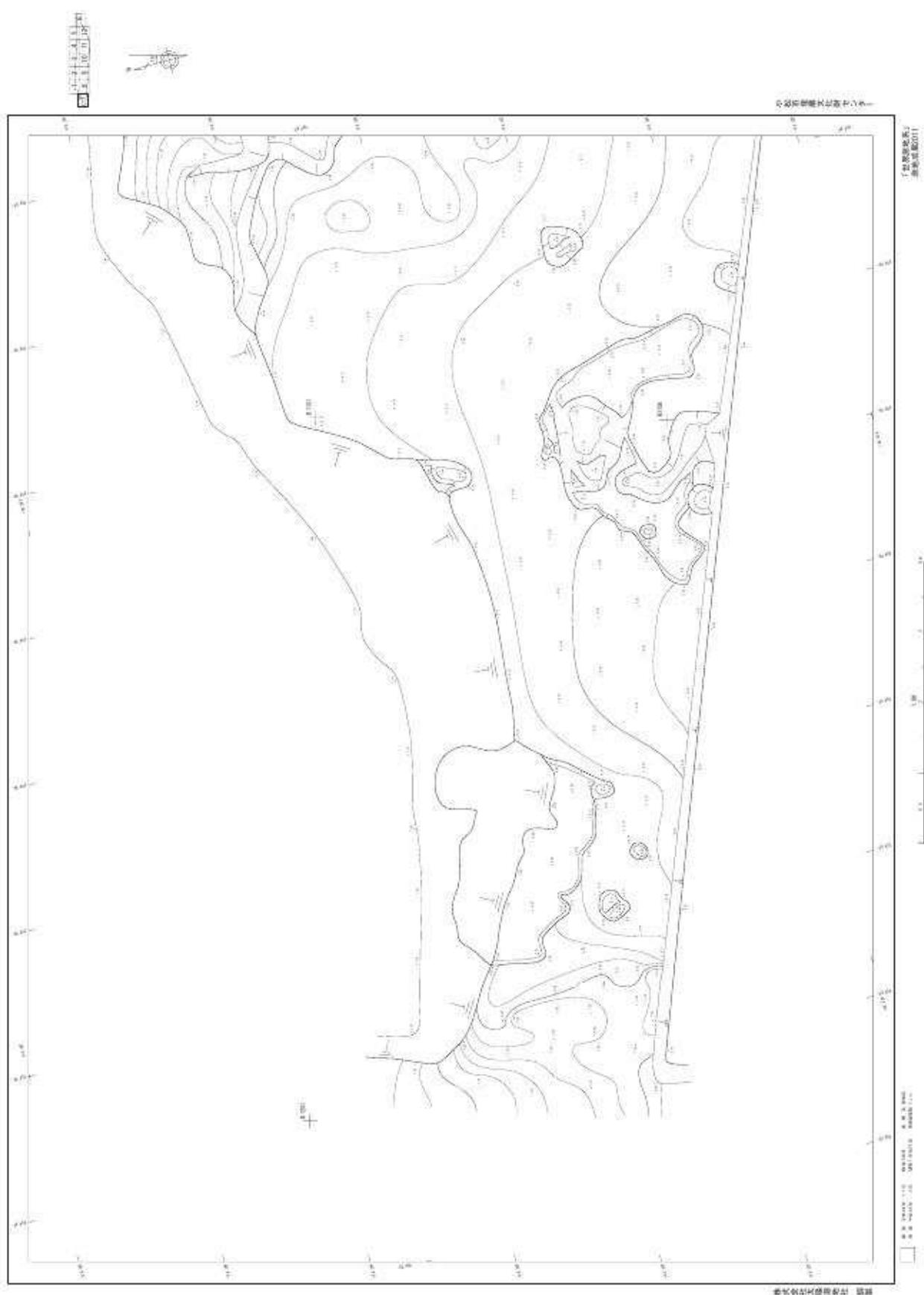


図版 8
平成28年度 矢田新遺跡 平面図

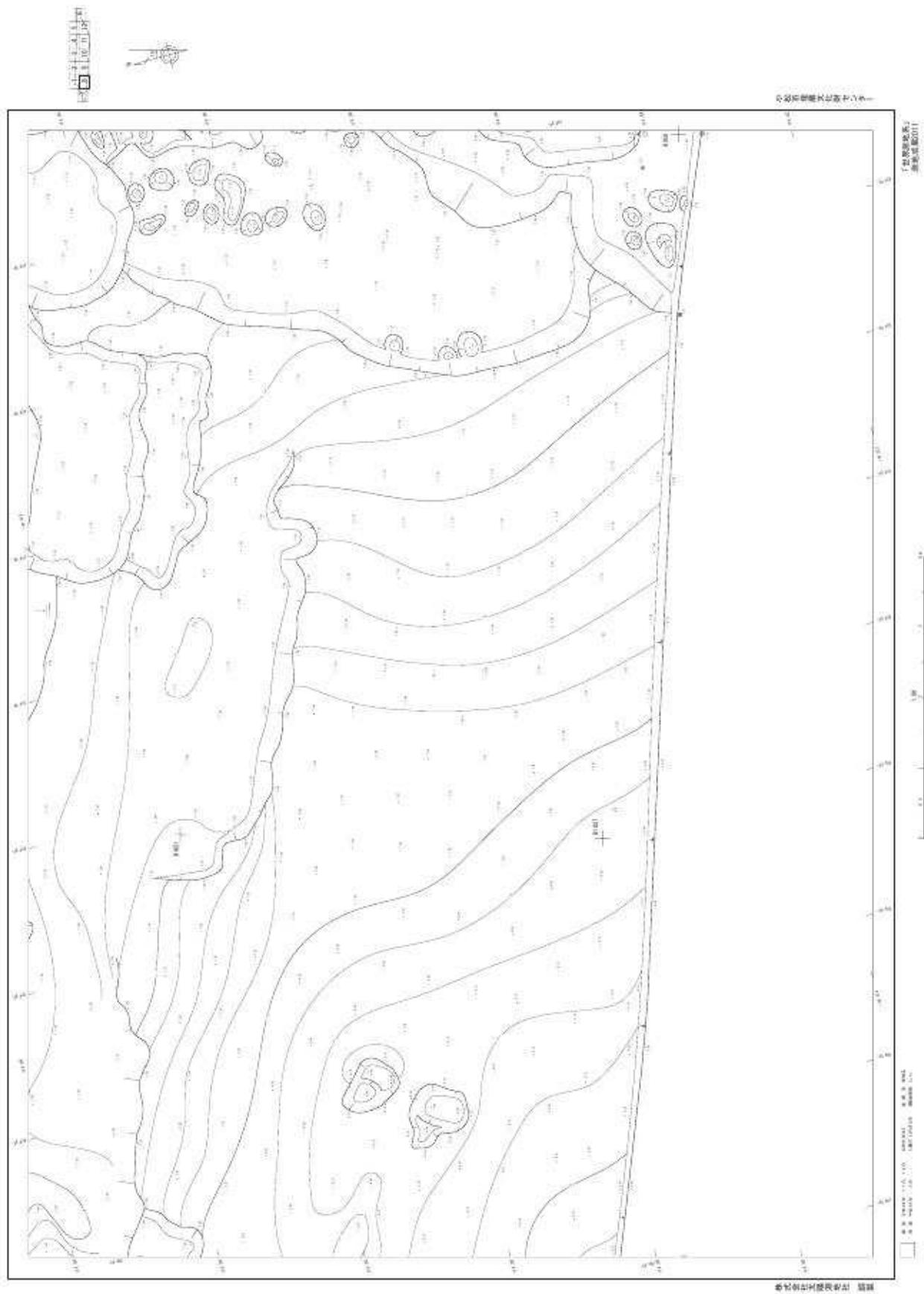


平成28年度

平面圖 9

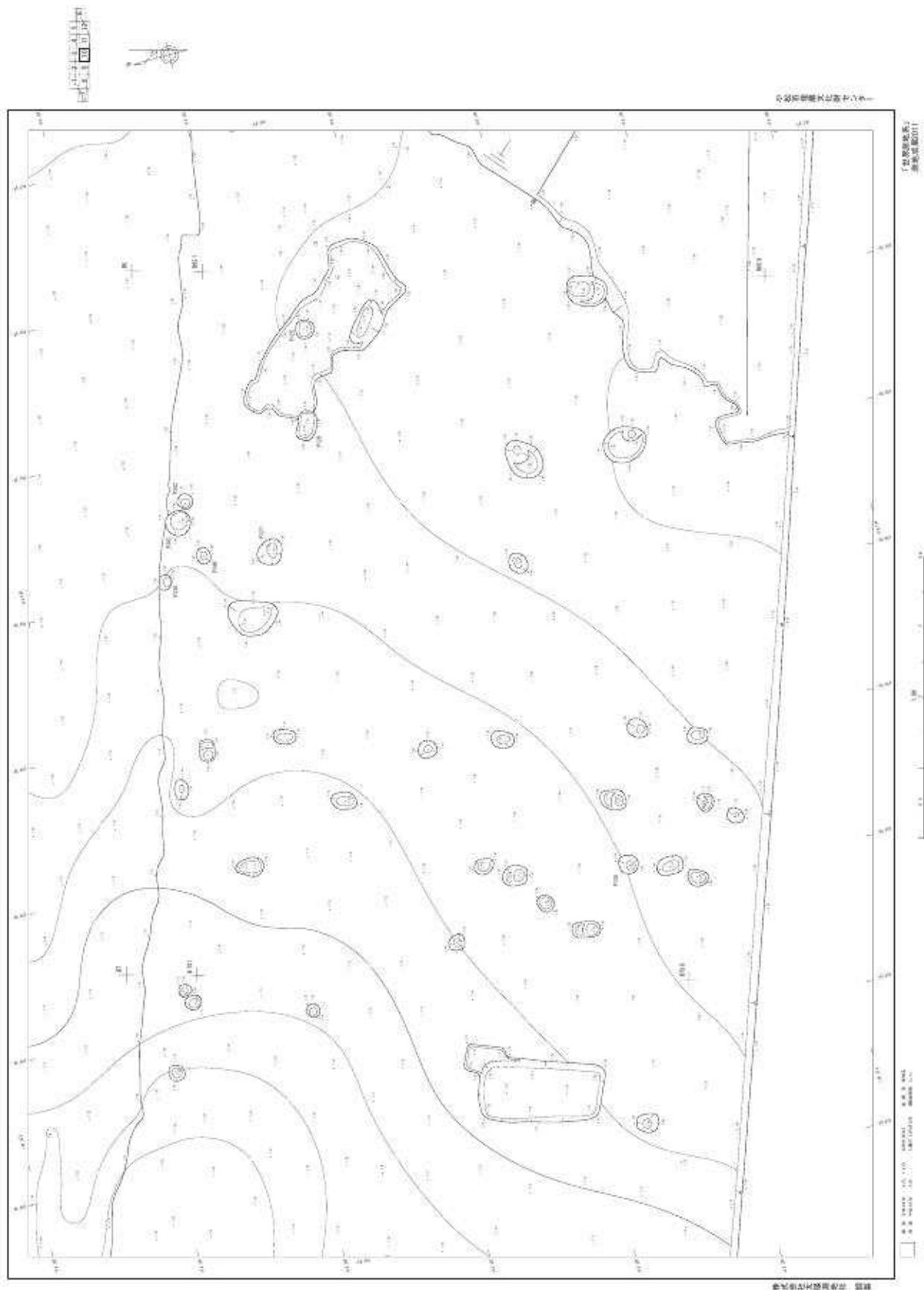


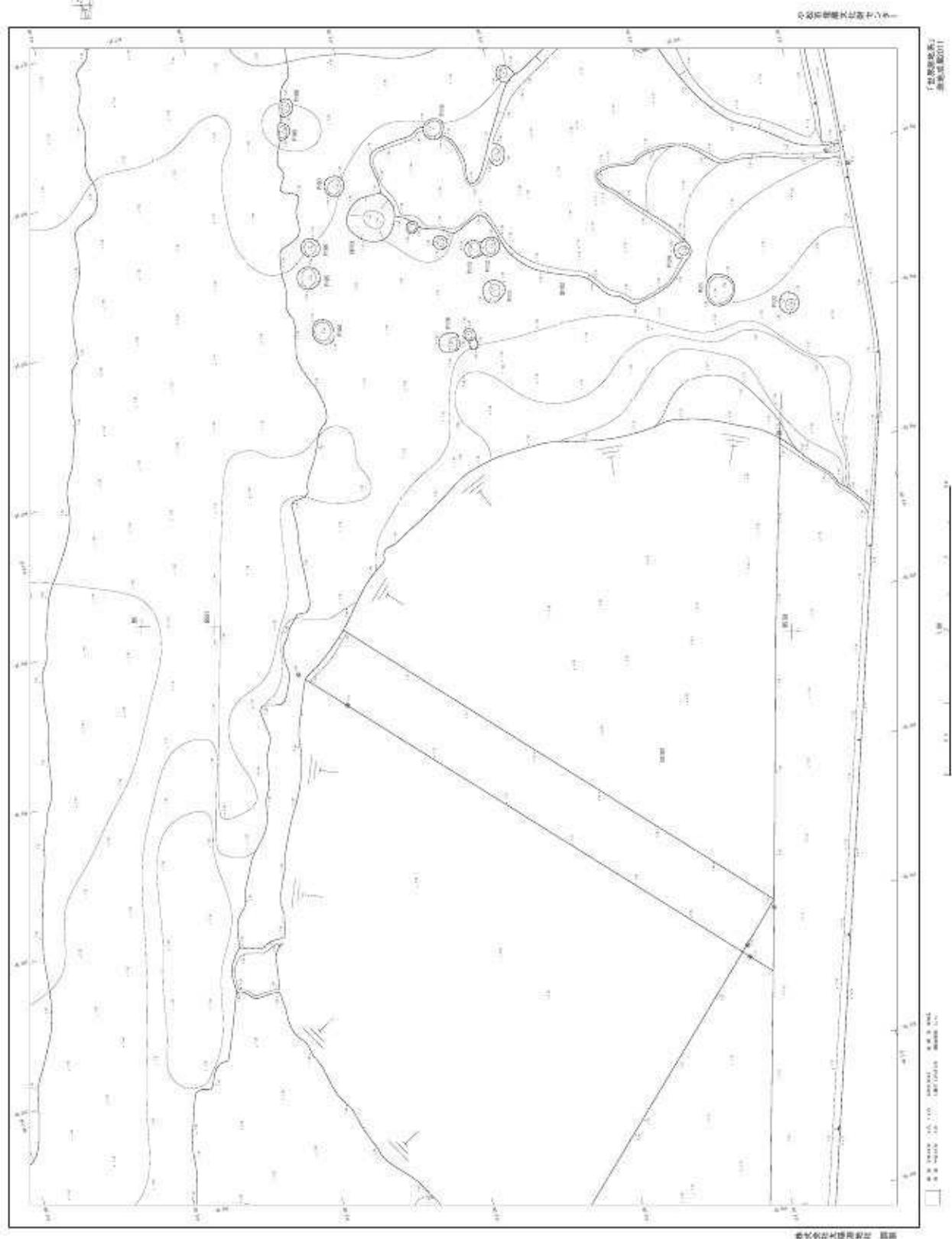
図版
10
平成28年度 矢田新遺跡 平面図

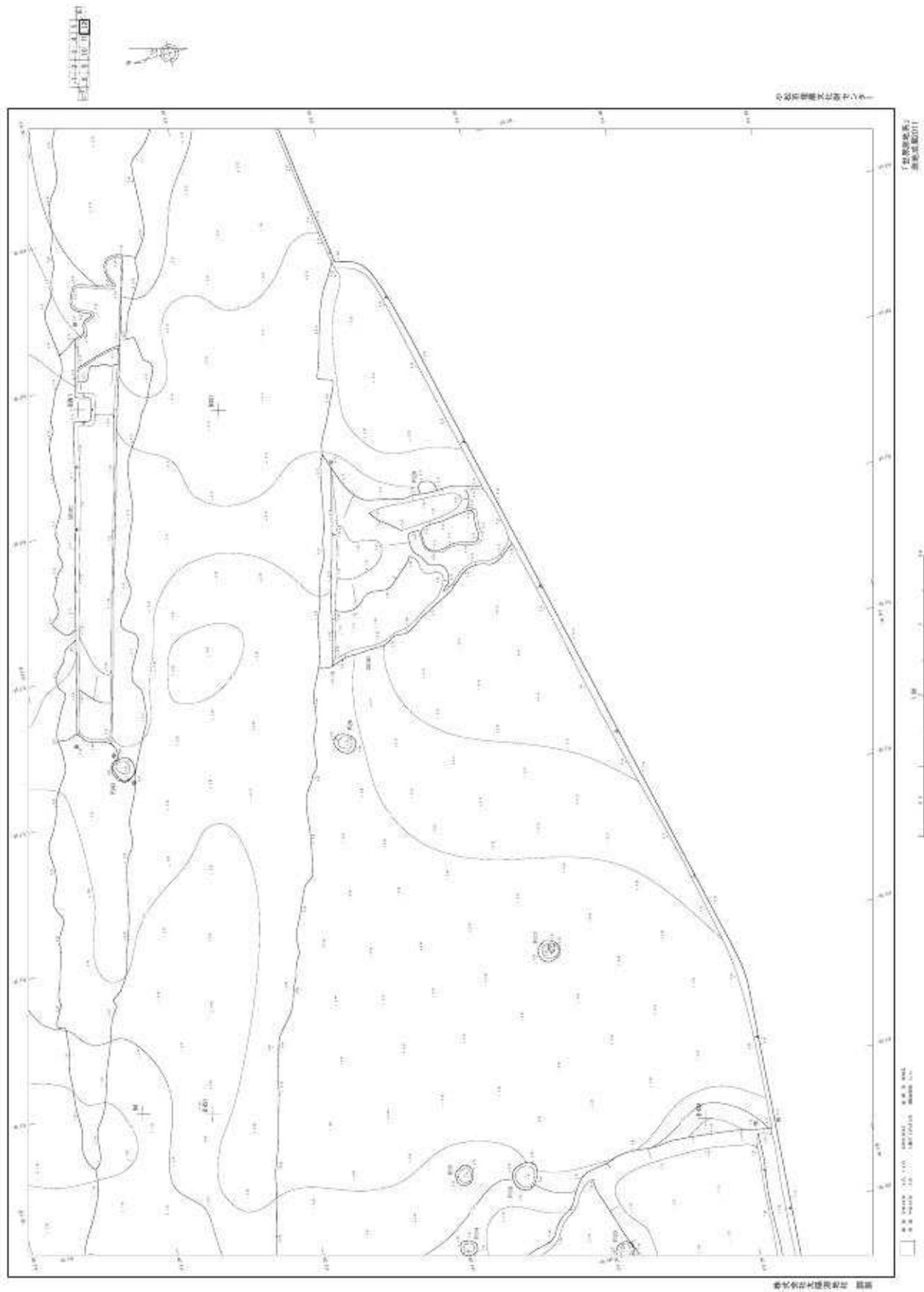


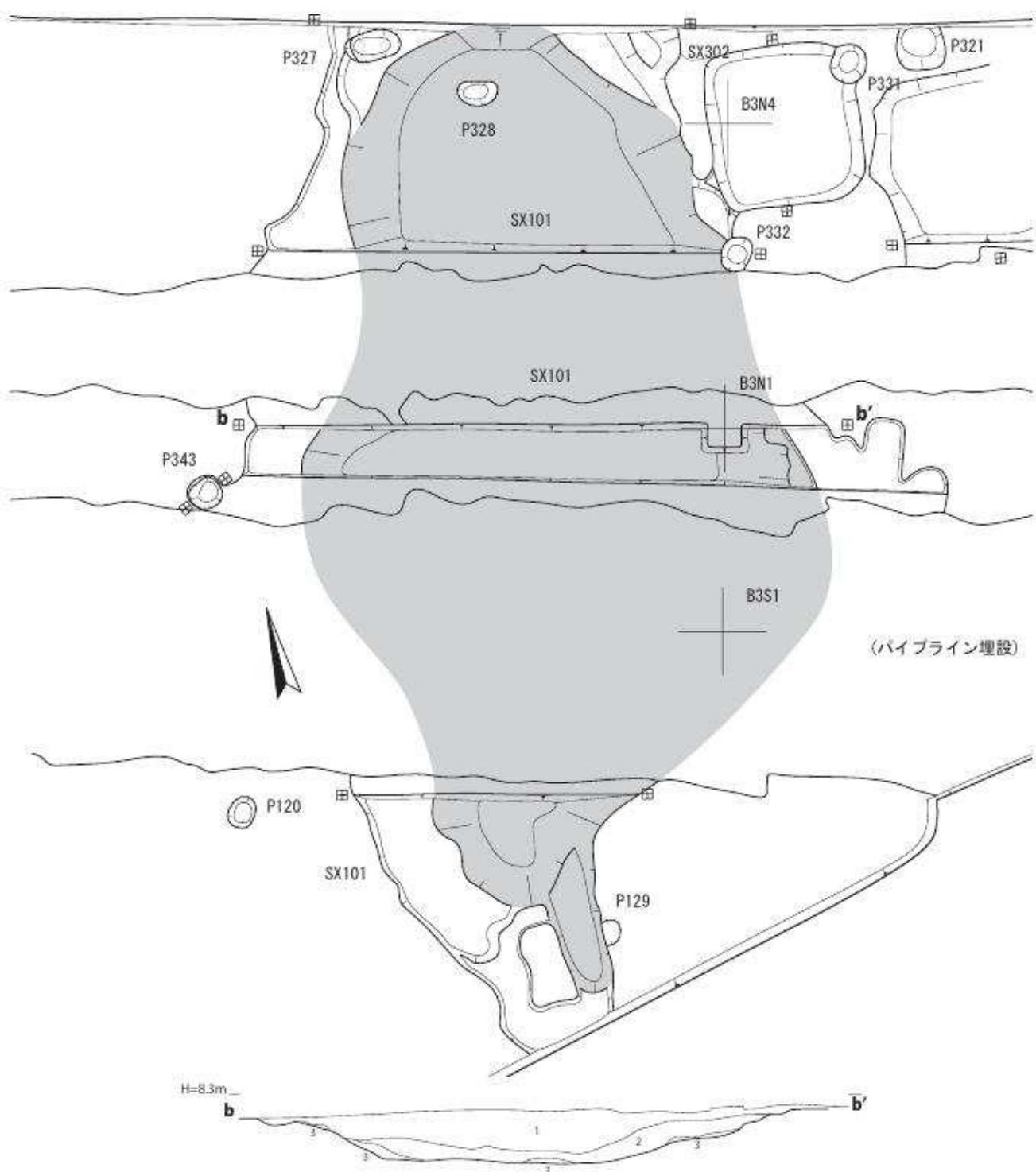


図版
12
平成28年度 矢田新遺跡 平面図







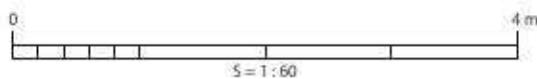


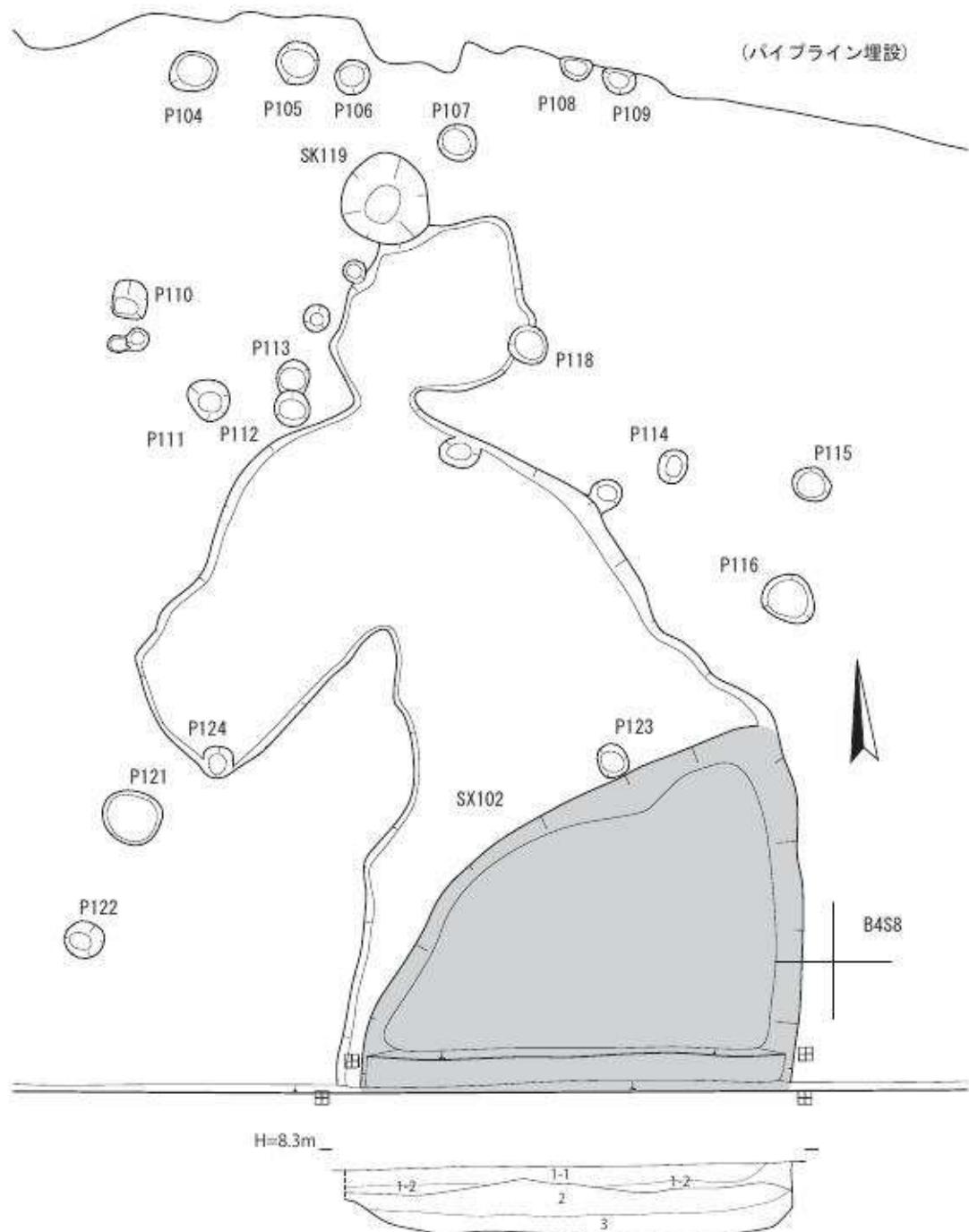
Hue V/C 色名, 土性, 堅密, 摘要

1: 10YR 3/3 暗褐色, 塙壌土, 堅, 10YR 4/6 褐色あり (10%) 10YR 8/4 淡黄橙色あり (< 5%)

2: 10YR 3/4 暗褐色, 塙壌土, 堅, 10YR 4/6 褐色あり (< 5%)

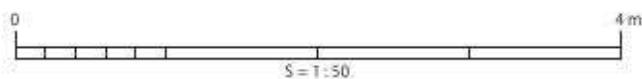
3: 10YR 4/3 にぶい黄褐色, 塙壌土, 堅, 10YR 5/6 黄褐色あり (10%)

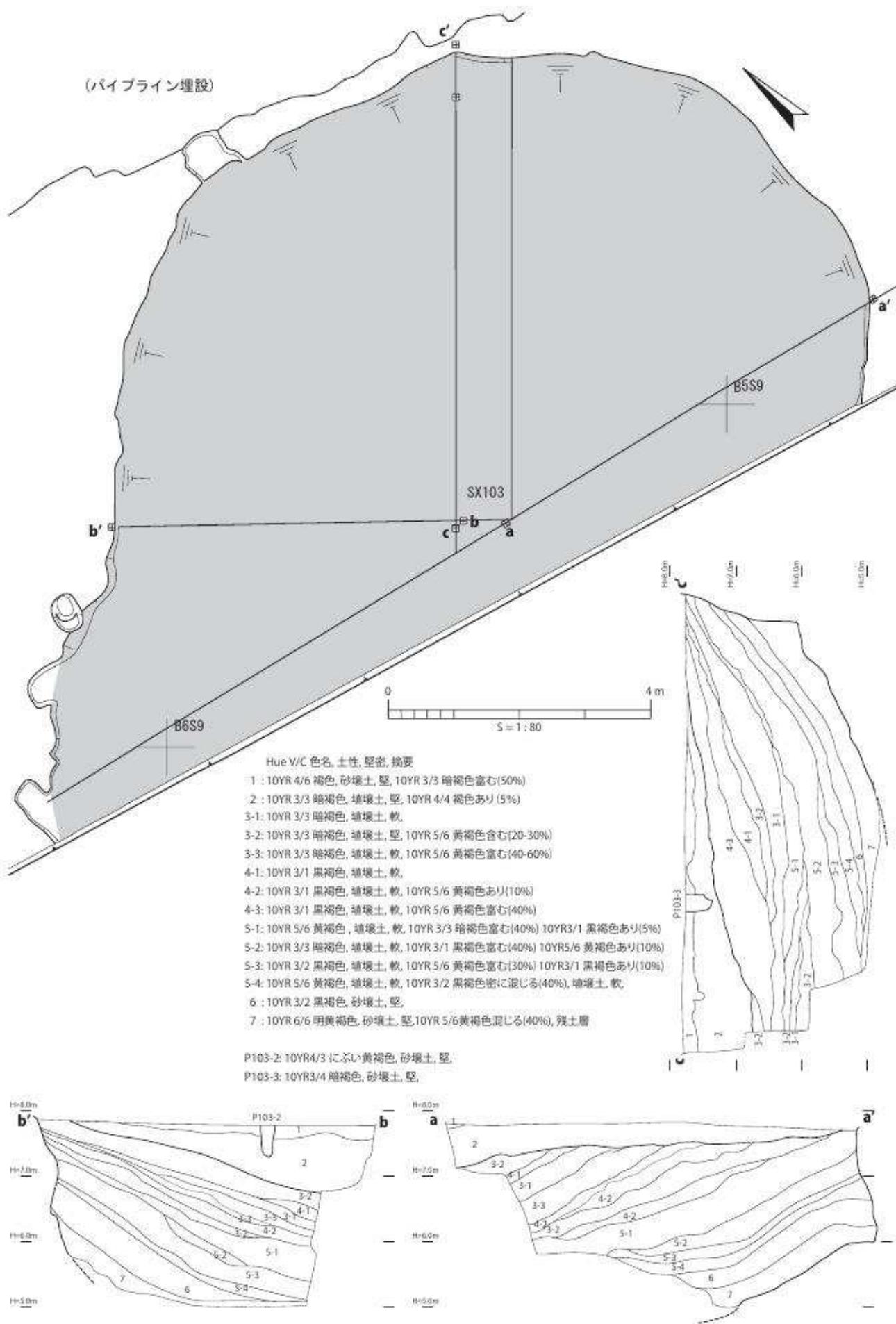


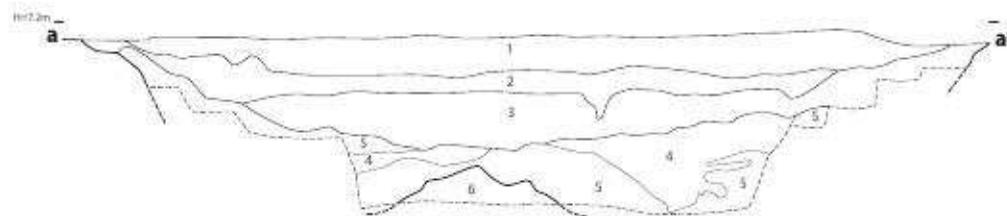
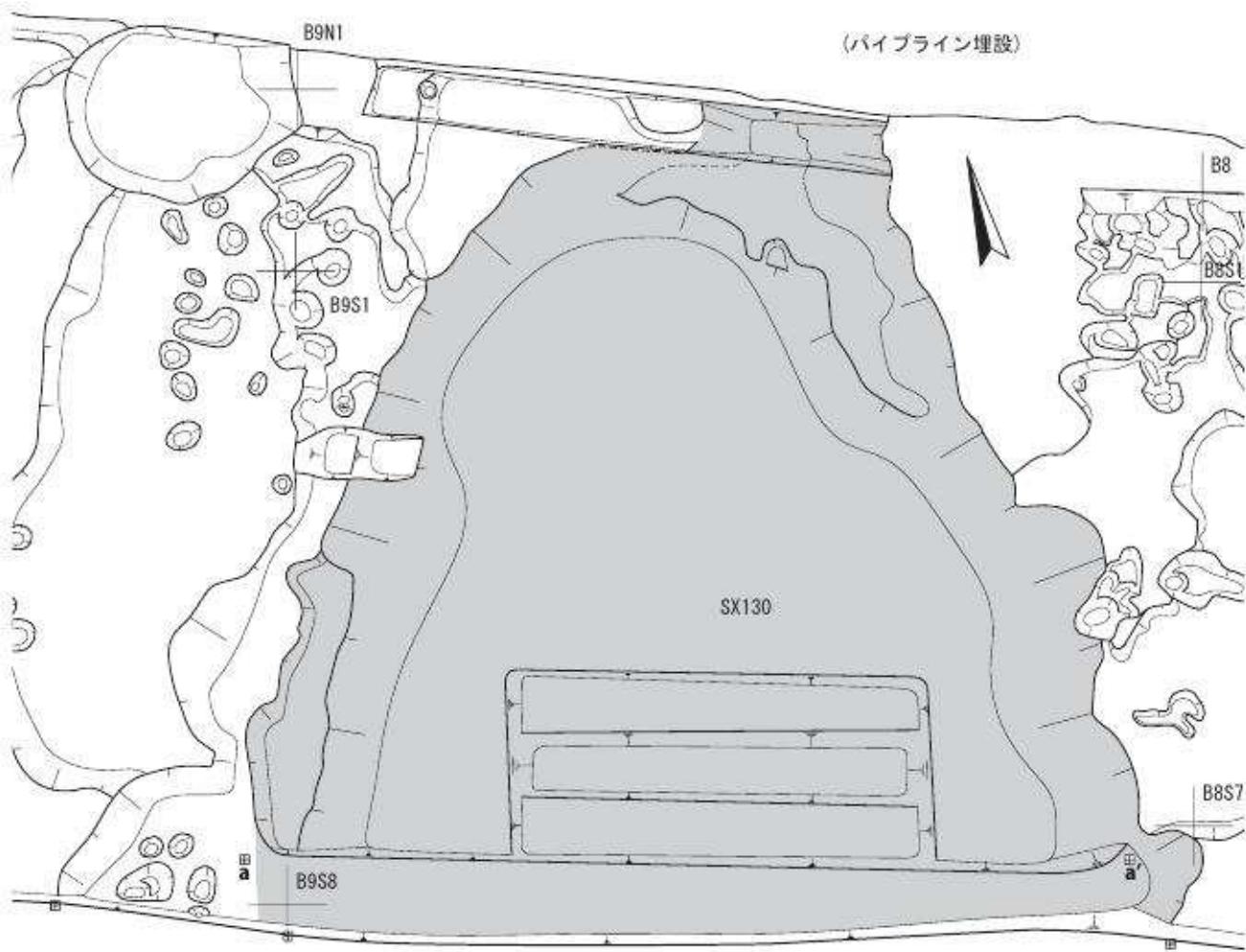


Hue V/C 色名, 土性, 堅密, 摘要

- 1-1: 10YR 2/3 黒褐色, 砂壤土, 軟, 耕作土
- 1-2: 10YR 2/3 黒褐色, 砂壤土, 軟, 10YR 5/6 黄褐色粘土粒少量混じる(5%)
- 2: 10YR 3/3 暗褐色, 塙壤土, 堅, 黄褐色粘土粒少量混じる(5%)
- 3: 10YR 3/1 黒褐色, 塙壤土, 堅, 10YR 5/6 黄褐色粘土粒少量混じる(5%)



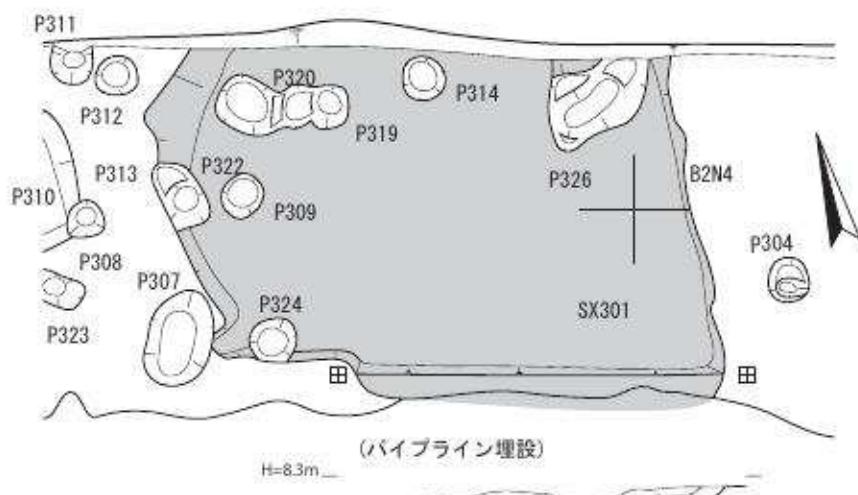




Hue V/C 色名, 土性, 堅密, 摘要

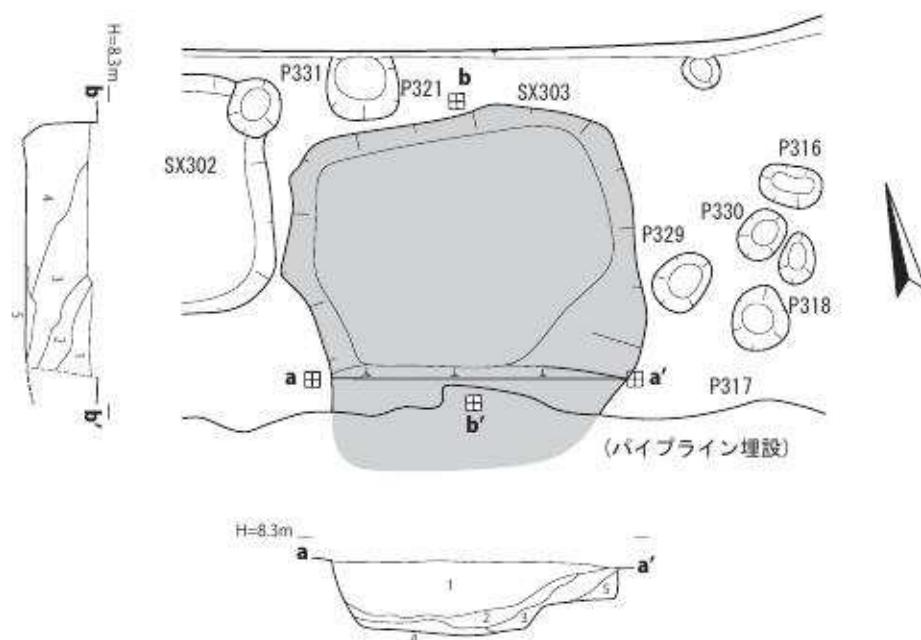
- 1: 10YR 4/3 に近い黄褐色, 砂壤土, 堅, 10YR 8/2 灰白色粘土粒あり(< 5%)
- 2: 10YR 3/3 暗褐色, 塙壤土, 軟,
- 3: 10YR 4/4 褐色, 塙壤土, 軟, 10YR 5/6 黄褐色あり(5%)
- 4: 10YR 3/2 黒褐色, 塙壤土, 堅, 10YR 5/6 黄褐色含む(10%)
- 5: 10YR 4/6 褐色, 塙壤土, 堅, 10YR 8/4 浅黄橙色含む(20%) 10YR 3/2 黑褐色あり(5%以下)
- 6: 10YR 8/4 浅黄橙色, 砂壤土, 堅, (地山層)





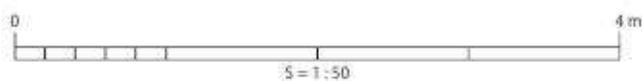
Hue V/C 色名, 土性, 堅密, 摘要

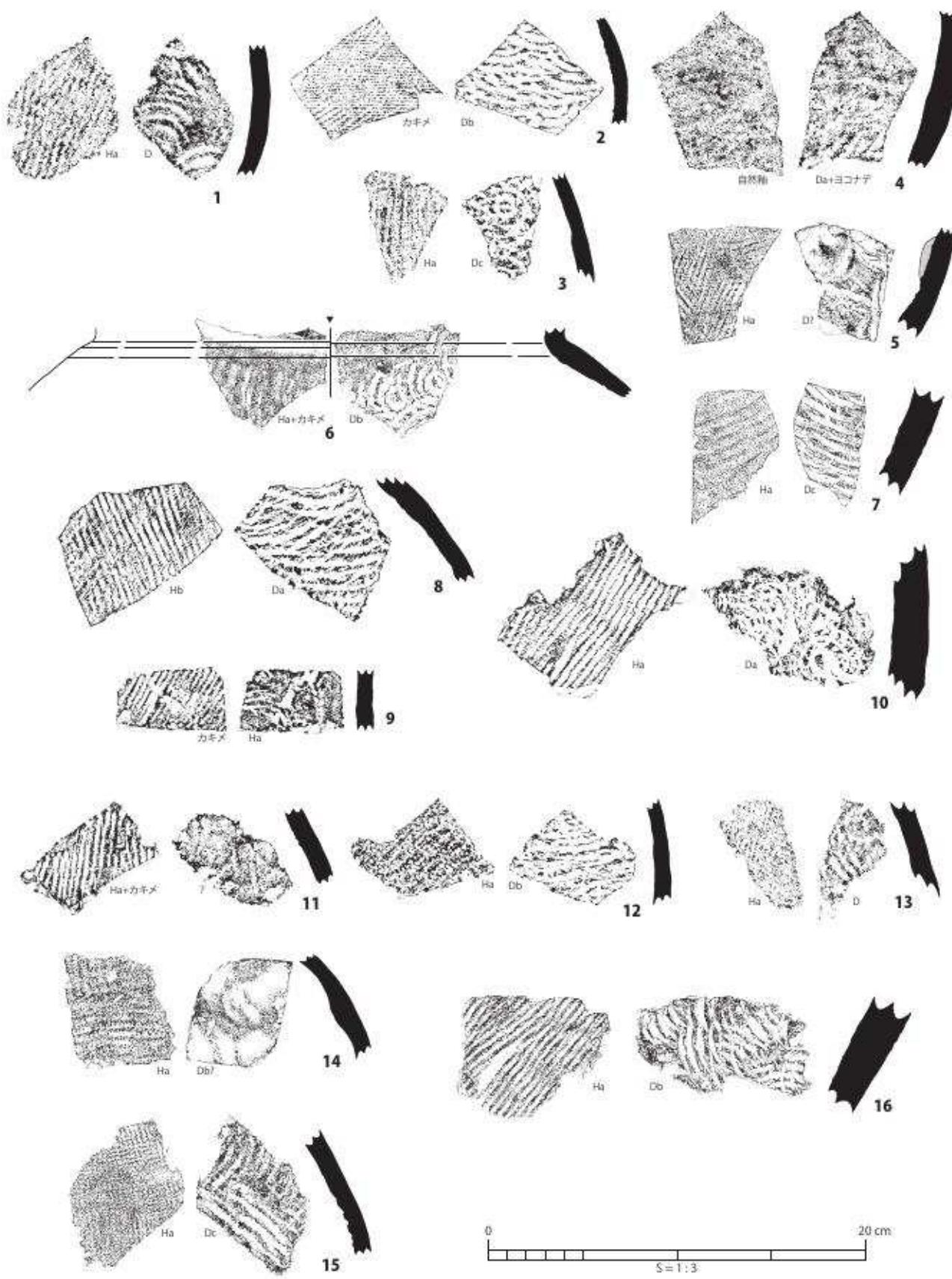
- 1: 10YR 3/3 暗褐色, 壤壌土, 軟弱, 10YR 4/6 褐色あり (5%)
- 2: 10YR 4/6 褐色, 壤壌土, 軟弱, 10YR 3/3 暗褐色富む (40%) (残土層)

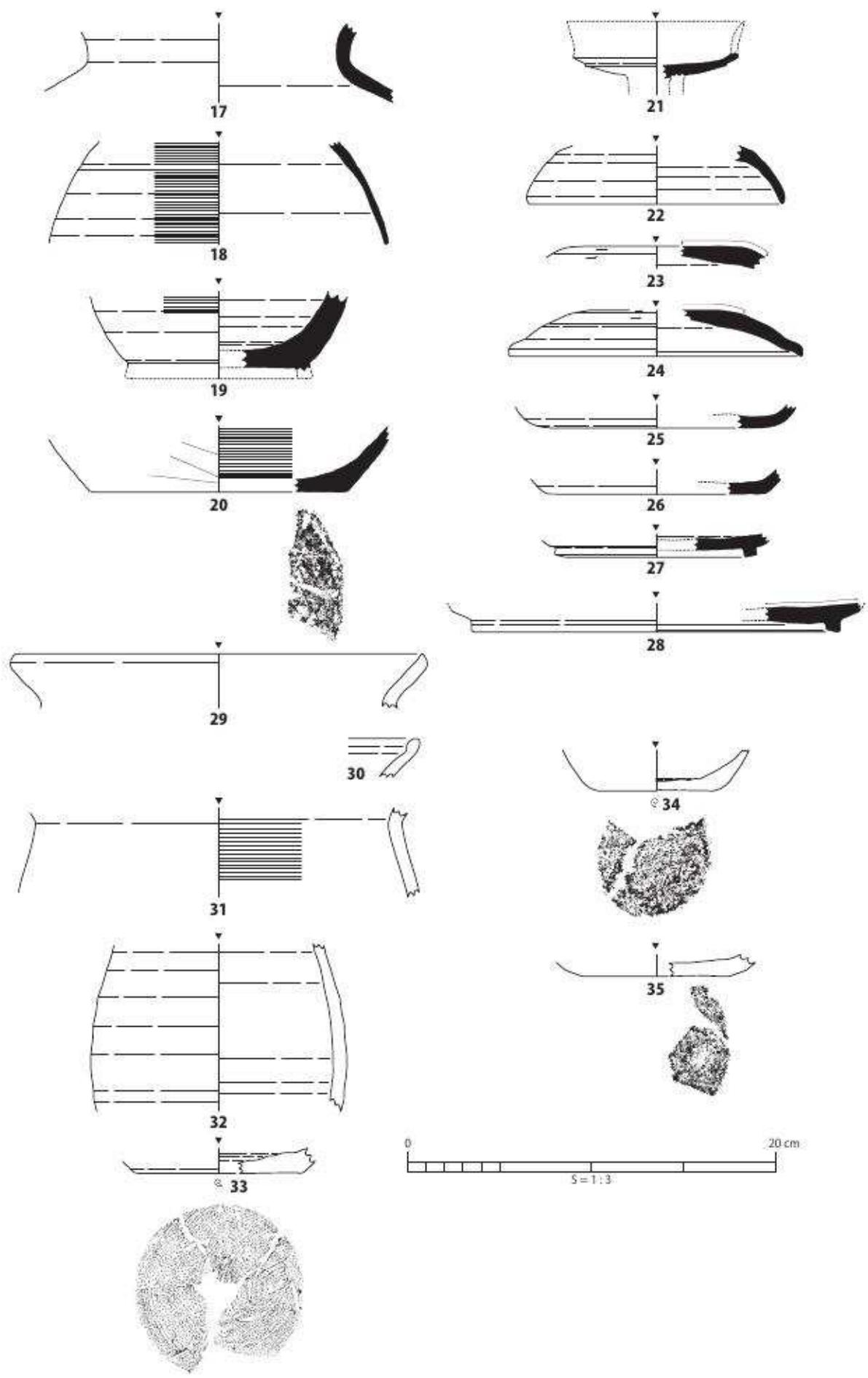


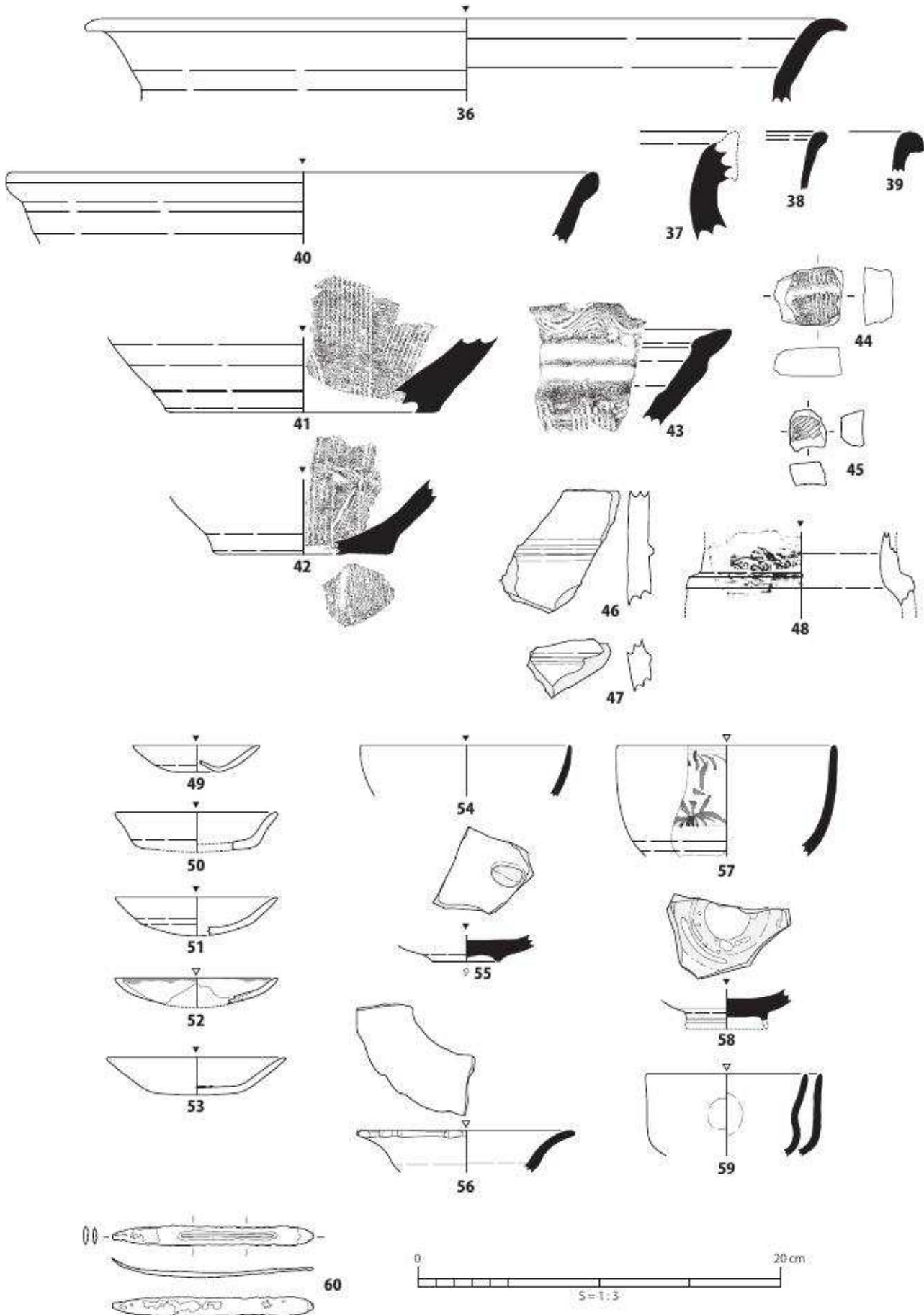
Hue V/C 色名, 土性, 堅密, 摘要

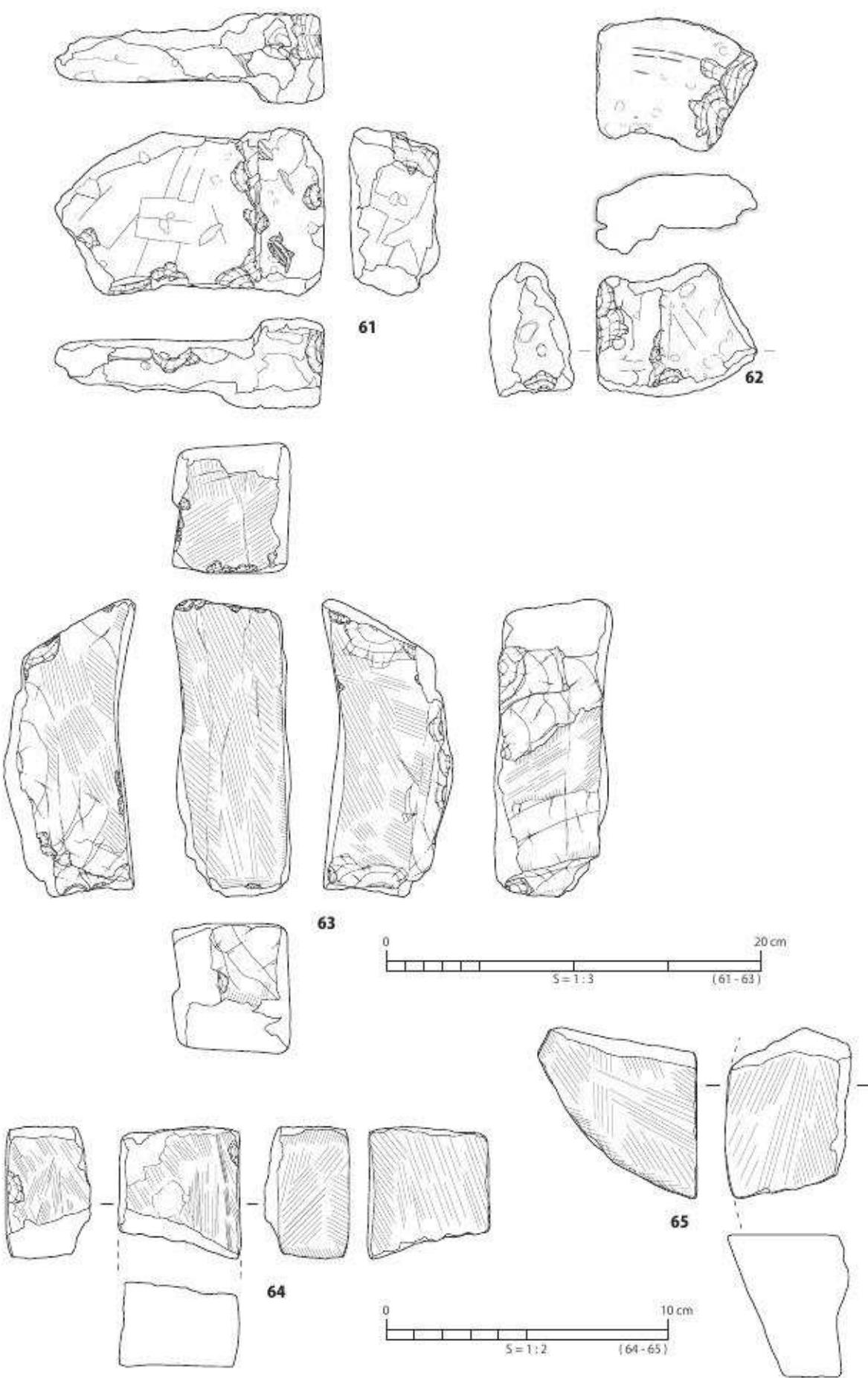
- 1: 10YR 4/6 褐色, 壤壌土, 堅, 10YR 3/3 暗褐色あり(10%)
- 2: 10YR 3/3 暗褐色, 壤壌土, 堅, 10YR 4/6 褐色含む(30%)
- 3: 10YR 4/6 褐色, 壤壌土, 堅, 10YR 3/3 暗褐色含む(30%)
- 4: 10YR 3/3 暗褐色, 壤壌土, 軟, 10YR 4/6 あり(10%)
- 5: 10YR 3/3 暗褐色, 壤壌土, 堅, 10YR 8/4 浅黄橙色あり(10%) 10YR 4/6 褐色あり(10%)

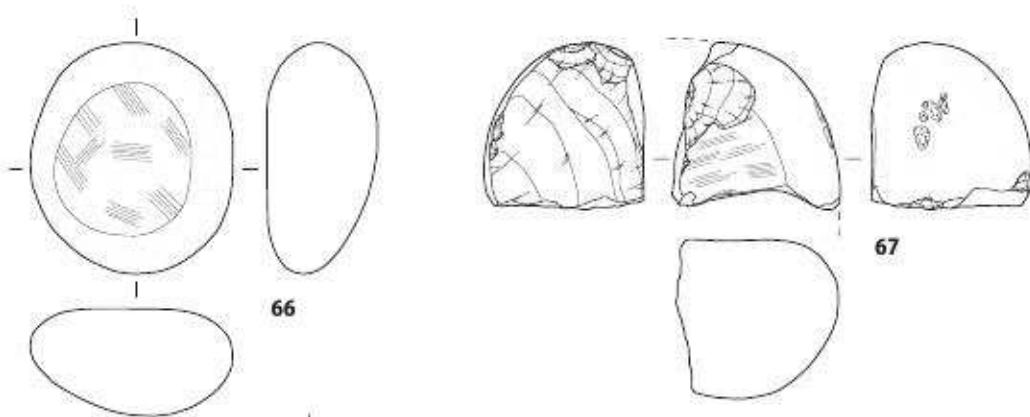




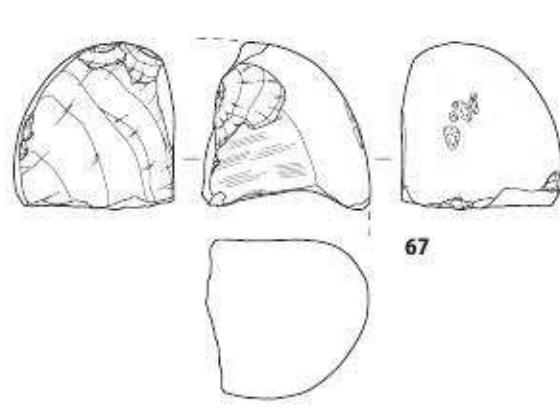




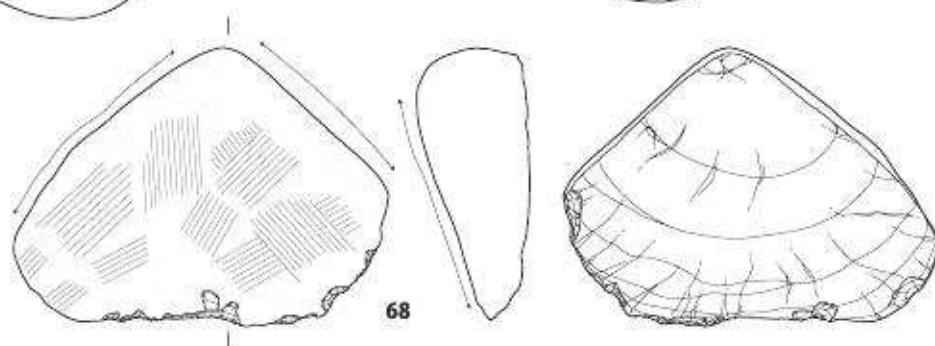




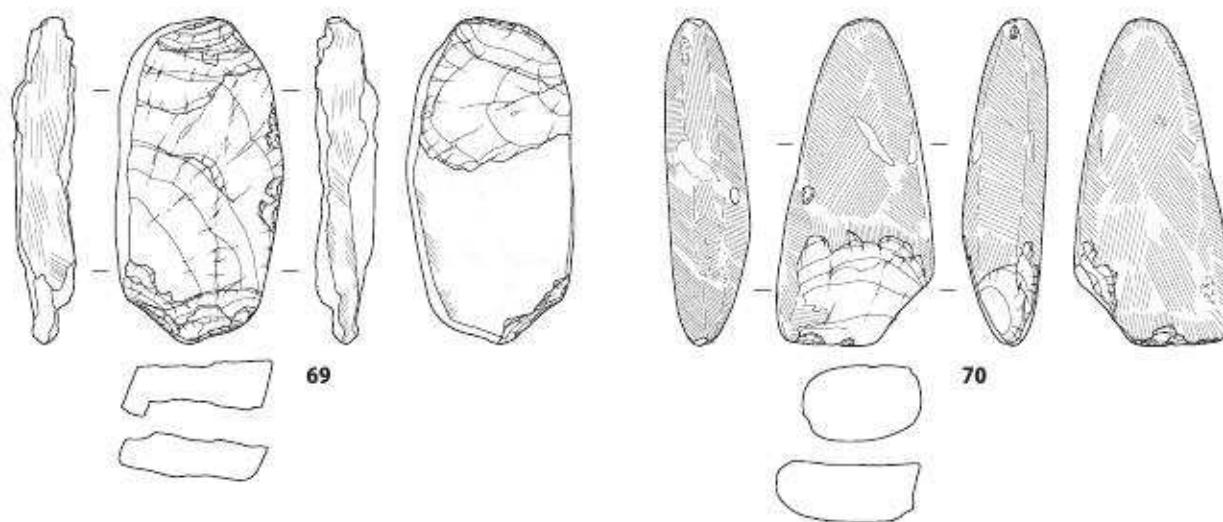
66



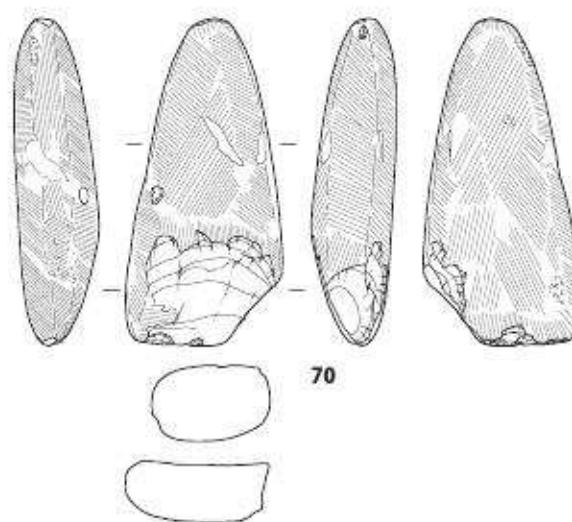
67



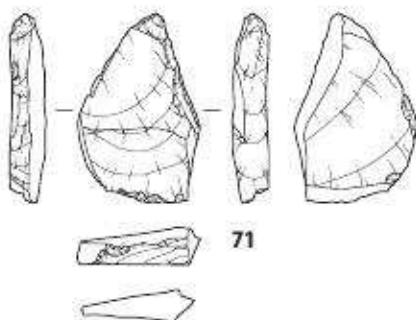
68



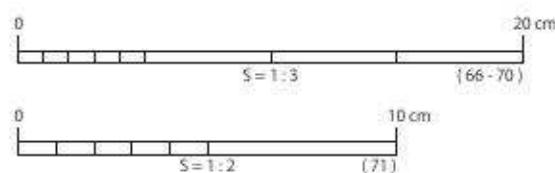
69



70



71





I区 空中撮影(俯瞰)



I区 空中撮影(垂直)



II区 空中撮影(俯瞰)



II区 空中撮影(垂直)



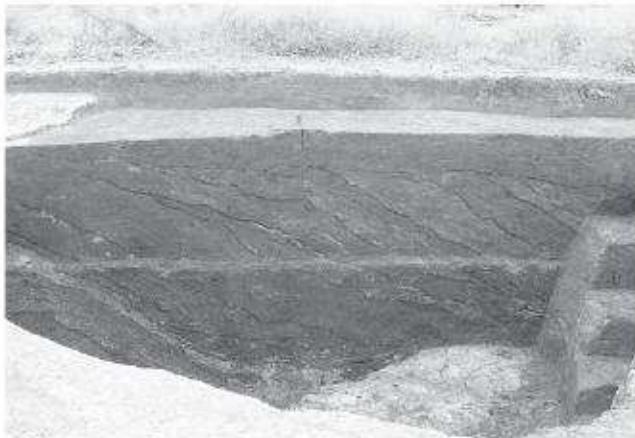
III区 空中撮影(垂直)



III区 空中撮影(垂直スポット)



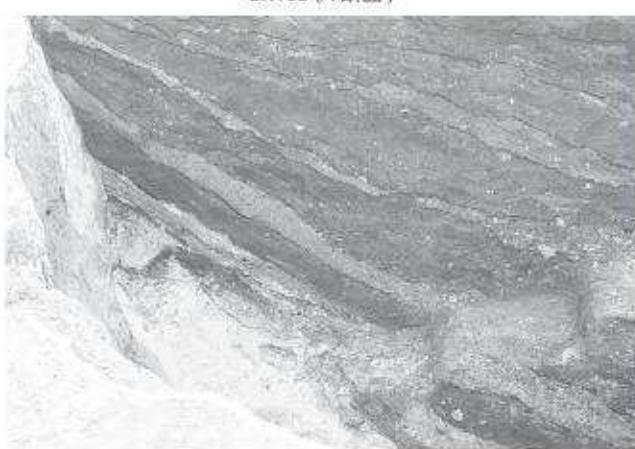
SX103(垂直撮影)



SX103(A断面)



SX103(B断面)



SX103(C断面)



SX130 (断面)



地元の公民館行事の様子 (体験発掘)





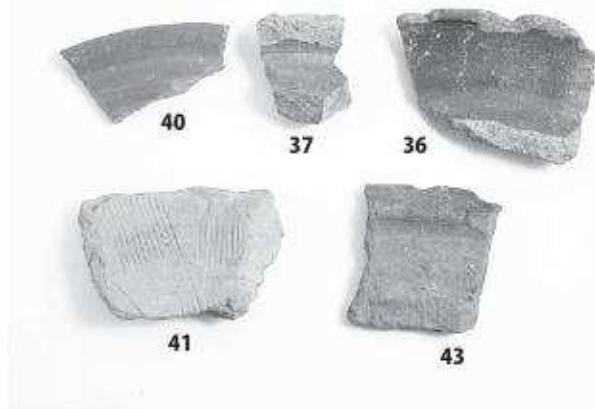
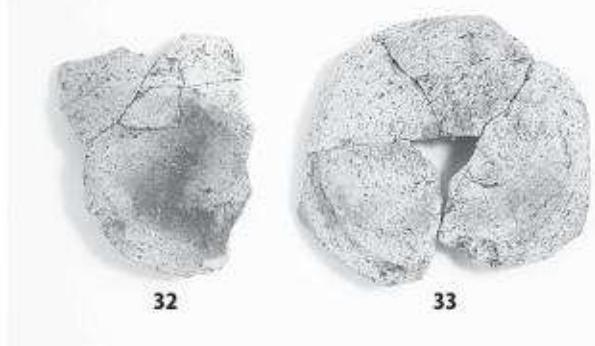
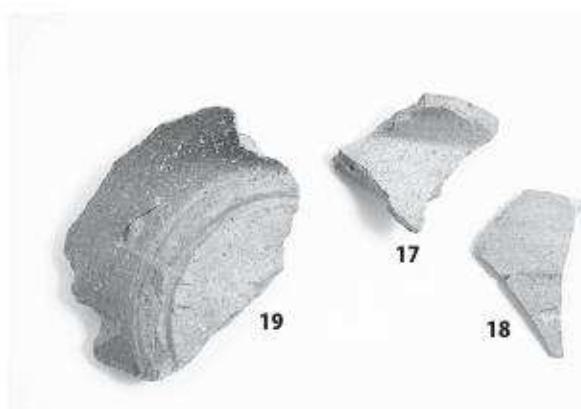
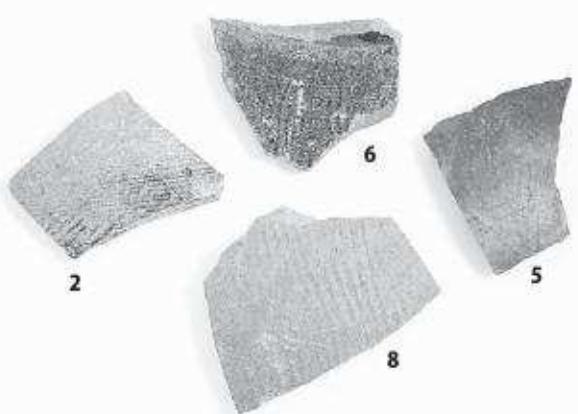
作業状況(Ⅰ区)

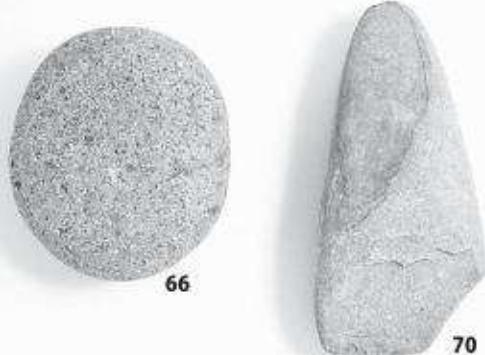
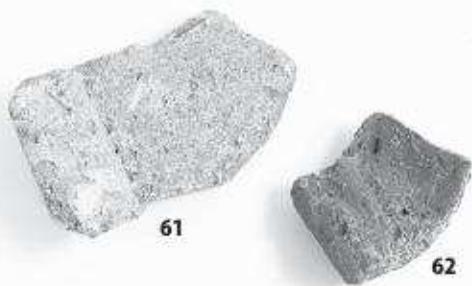
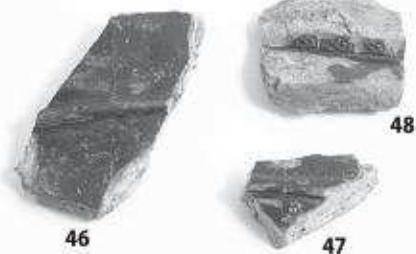


作業状況(Ⅲ区)



空中写真撮影





報告書抄録

ふりがな	やたしんいせき
書名	矢田新遺跡
副書名	地方道改築事業 南加賀道路（粟津ルート）に伴う新設道路工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
編・著者名	宮田 明
編集機関	小松市埋蔵文化財センター
所在地	〒923-0075 石川県小松市原町ト77-8 TEL(0761)47-5713
発行年月日	西暦2018年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'\"/>	東経 °'\"/>	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
矢田新	いしかわけん こまつし 石川県小松市 矢田新町	17203	03108	36° 20' 20"	136° 24' 7"	2016.8.29～ 2016.12.14	1,410	地方道改築事業 南加賀道路 (粟津ルート)に 伴う新設道路工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
矢田新	集落	縄文 古 中世 近世	大型土坑2 不明遺構2 土坑3	須恵器、土師器、越前、珠洲、瓦質土器、肥前系陶磁器、磨製石斧、磨石類、砥石、行火	
要約	遺物の多くは2基の大型土坑を埋め戻した層から出土、掘削時期は不明。				

矢田新遺跡

地方道改築事業 南加賀道路（栗津ルート）に伴う新設道路工事に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成30年3月30日 発行

編集・発行 小松市埋蔵文化財センター
石川県小松市原町丁 77-8 TEL (0761) 47-5713

印 刷 ホクト印刷株式会社
石川県小松市日の出町3-106-1 TEL (0761) 22-7170
